

授業科目名： 国際政治経済I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西村もも子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 国際関係における政治と経済の連関 (1) 国際政治経済の基本的な理論や概念を理解する。 (2) 国際政治経済の理論に基づいて、具体的事象を自分の言葉で説明できる。			
授業の概要 今日の国際経済をめぐるのは複雑かつ多様な問題が次々と生じており、そのほぼ全てにおいて政治が関わっている。この授業ではまず、「経済」に関する基本的な理解を確かめる。そして、近現代における国際経済の変化とその背景を学ぶことを通して、国際関係をめぐる政治と経済がどのように相互に関係しているのかを理解する。その上で、国際政治経済を理解する上で有用となる基本的な考え方や理論を学ぶ。			
授業計画 第1回 インTRODクシヨン 第2回 経済とは(1) 第3回 経済とは(2) 第4回 市場の失敗と国際関係(1) 第5回 市場の失敗と国際関係(2) 第6回 通商とは 第7回 金融とは 第8回 国際政治経済の歴史(1) 第9回 国際政治経済の歴史(2) 第10回 国際政治経済の歴史(3) 第11回 国際政治経済の歴史(4) 第12回 国際政治経済の歴史(5) 第13回 国際政治経済の歴史(6) 第14回 ディスカッション 定期試験			

テキスト なし

参考書・参考資料等

- ①飯田敬輔『国際政治経済』東京大学出版会、2007年
- ②野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟『国際政治経済学・入門 第3版』有斐閣2007年
- ③河野勝、竹中治堅『アクセス 国際政治経済論』日本経済評論社、2003年
- ④田所昌幸『国際政治経済』名古屋大学出版会、2008年 等。

学生に対する評価

定期試験 (90%) および出席状況(10%)

授業科目名： 国際政治経済II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西村もも子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
国際政治経済をめぐる事例の分析 (1) 国際政治経済の基本的な理論や概念を理解し、それらを用いて具体的事象を自分の言葉で説明できるようになる。 (2) ディスカッションを通して、自分の意見の効果的な述べ方やまとめ方を習得する。			
授業の概要			
この授業では、国際政治経済 I で学んだ基本的な理論や概念を用いて、国際経済をめぐる様々な事例を分析する。取り上げる事例は受講者の希望に沿って決めるが、貿易、金融、環境、開発、人権といった問題を扱う予定である。			
授業計画			
第1回 イン트로ダクション			
第2回 国際政治経済の基本的な考え方の確認			
第3回 国内政治と国際政治の連関 (1)			
第4回 国内政治と国際政治の連関 (2)			
第5回 事例分析—貿易 (1)			
第6回 事例分析—貿易 (2)			
第7回 貿易に関するディスカッション			
第8回 事例分析—環境			
第9回 環境に関するディスカッション			
第10回 事例分析—開発 (1)			
第11回 事例分析—開発 (2)			
第12回 開発に関するディスカッション			
第13回 事例分析—人権			
第14回 人権に関するディスカッション			
定期試験			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

- ①飯田敬輔『国際政治経済』東京大学出版会、2007年
- ②野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟『国際政治経済学・入門 第3版』有斐閣、2007年
- ③河野勝、竹中治堅『アクセス 国際政治経済論』日本経済評論社、2003年
- ④田所昌幸『国際政治経済』名古屋大学出版会、2008年

学生に対する評価

定期試験（90%）および出席状況（10%）

授業科目名： アジア国際関係論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 家永真幸
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 東アジアの国際関係について、①戦後アジアの脱植民地化、冷戦下の分断国家問題、民主化プロセスについての基本的な事実関係、②中国ナショナリズムと台湾ナショナリズムの相克、③グローバル化とローカル化、多文化主義と国民統合の関係性、の3つの視角から自分の言葉で説明できるようになること。			
授業の概要 第二次世界大戦後東アジアの国際政治について、台湾をめぐる問題などの例を軸に、おおむね時系列に沿って講義することを通じ、現代の国際関係を理解するために教員が重要だと考える視角や手法を提示する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：台湾の法的地位をめぐる対立 第3回：植民地の「戦後」はいつ始まったのか 第4回：日本の戦後講和 第5回：朝鮮戦争と台湾海峡の分断 第6回：国連における中国代表権問題 第7回：米中関係と中ソ関係の新展開 第8回：台湾との断交と非公式関係の継続 第9回：アジアの民主化 第10回：中台関係の緊張緩和と再緊張 第11回：ナショナリズムとアイデンティティの問題 第12回：ジャイアント・パンダをめぐる国際政治 第13回：米中対立と台湾海峡 第14回：台湾の政権交代と東アジアの安定の行方 第15回：総括 定期試験			

テキスト

特定のテキストを用いず、プリントを配付する。

参考書・参考資料等

赤松美和子、若松大祐編『台湾を知るための 72 章』明石書店、2022 年。

家永真幸『台湾のアイデンティティ——「中国」との相克の戦後史』文春新書、2023 年。

家永真幸『国宝の政治史——「中国」の故宮とパンダ』東京大学出版会、2017 年。

五十嵐隆幸『大陸反攻と台湾』名古屋大学出版会、2021 年。

川島真ほか『日台関係史』東京大学出版会、2009 年。

佐橋亮『共存の模索：アメリカと「二つの中国」の冷戦史』勁草書房、2015 年。

福田円『中国外交と台湾：「一つの中国」原則の起源』慶應義塾大学出版会、2013 年。

若林正文『台湾——変容し躊躇するアイデンティティ』ちくま新書、2001 年。

若林正文『台湾の政治——中華民国台湾化の戦後史』東京大学出版会、2008 年。

学生に対する評価

平常点（60%）、期末レポート（40%）

授業科目名： 国際開発論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 牧野 耕司 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際開発とは、開発途上国の発展や開発を指す広い概念であり、現在の文脈ではSDGsに近い。国際協力とは、国際開発の実現のため主に先進国から途上国になされる支援を指す。本授業では、国際開発の基礎を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>世界の195か国のうち150か国以上が、開発途上国と呼ばれる国々である。開発途上国の多くは貧困や紛争といった問題を抱え、貧困による衛生事情の悪化が感染症の蔓延や環境汚染につながっている。また、貧困は教育や雇用の機会を奪い、社会不安を招くことから、紛争の原因にもなっている。世界がグローバル化した現在、こうした問題は、世界規模での環境破壊や感染症の蔓延、紛争問題の深刻化といった形で、世界全体を脅かしており、決して開発途上国だけの問題ではない。国境を越える地球全体の問題は、世界各国が力を合わせて国際協力として取り組む必要がある。</p> <p>本授業では、気候変動、貧困、紛争などの現代の世界の諸問題を途上国中心に俯瞰するとともに、世界の開発目標であるSDGsについて学ぶ。また足元の経験すなわち日本の開発の経験を江戸期にまで遡り理解するとともに、アフリカや東南アジアの具体的な問題と開発のダイナミズムについて俯瞰する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：途上国の日常生活（普通の人々の生活、海外赴任者の経験）</p> <p>第3回：世界で起きていること（気候変動、貧困、飢餓、紛争、格差等）</p> <p>第4回：なぜ国際開発が必要なのか？（グローバル化と分断など）</p> <p>第5回：日本自身の開発の経験（江戸期）</p> <p>第6回：日本自身の開発の経験（明治・大正期）</p> <p>第7回：日本自身の開発の経験（昭和期）</p> <p>第8回：アフリカの問題と開発のダイナミズム</p> <p>第9回：東南アジアの問題と開発のダイナミズム（ラオスの事例）</p>			

第10回：SDGs（持続可能な開発目標）とは

第11回：SDGs（貧困、格差、経済成長、援助の事例など）

第12回：SDGs（ジェンダー問題、女子教育、援助の事例など）

第13回：SDGs（環境、気候変動、生物多様性、援助の事例など）

第14回：SDGs（飢餓、農業、ウクライナ紛争影響、援助の事例など）

第15回：全体のまとめ（総括）

定期試験

テキスト

基本毎回パワーポイント資料を使用

参考書・参考資料等

下村恭民『日本型開発協力の形成』東京大学出版会

佐藤仁『開発協力のつくられ方』東京大学出版会

山田順一『インフラ協力の歩み』東京大学出版会

JICA緒方貞子開発研究所『今日の人間の安全保障』JICA

伊藤亞聖『デジタル化する新興国』中公新書

学生に対する評価

定期試験（70%）、出席と授業への参加状況（30%）

授業科目名： 国際開発論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 牧野 耕司 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際開発とは、開発途上国の発展や開発を指す広い概念であり、現在の文脈ではSDGsに近い。国際協力とは、国際開発の実現のため主に先進国から途上国になされる支援を指す。本授業では、国際開発の基礎を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>世界の195か国のうち150か国以上が、開発途上国と呼ばれる国々である。開発途上国の多くは貧困や紛争といった問題を抱え、貧困による衛生事情の悪化が感染症の蔓延や環境汚染につながっている。また、貧困は教育や雇用の機会を奪い、社会不安を招くことから、紛争の原因にもなっている。世界がグローバル化した現在、こうした問題は、世界規模での環境破壊や感染症の蔓延、紛争問題の深刻化といった形で、世界全体を脅かしており、決して開発途上国だけの問題ではない。国境を越える地球全体の問題は、世界各国が力を合わせて国際協力として取り組む必要がある。</p> <p>本授業では、国際協力の意義、限界、概要、歴史などについて学んだ上で、日本特にJICAの概要、戦略、事業、制度、課題などについて概観する。またウクライナ支援や中国などの新興国の援助のダイナミックな動きとともに、デジタル化や衛星技術、ソーシャル・ビジネスなどの近年の新しいアプローチを把握する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：国際協力とは（概観と具体的な事例(NINJA等)を中心に)</p> <p>第3回：国際協力の歴史（冷戦期、構造調整、貧困レジームなど）</p> <p>第4回：国際協力の現状（アクター、規模、システム、潮流など）</p> <p>第5回：日本の援助（歴史）</p> <p>第6回：日本の援助（JICA等組織、予算、システム、課題など）</p> <p>第7回：人間の安全保障</p> <p>第8回：人間の安全保障</p> <p>第9回：平和構築支援（ウクライナ支援、アフガン支援）、人身売買防止</p>			

第10回：民間企業支援

第11回：NGOs支援

第12回：中国など新興国による支援

第13回：援助の新しい潮流（DX、衛星技術、AI活用、IT格差など）

第14回：援助の新しい潮流（ソーシャル・ビジネス、ビジネスと人権）

第15回：全体のまとめ（総括）

定期試験

テキスト

基本毎回パワーポイント資料を使用

参考書・参考資料等

下村恭民『日本型開発協力の形成』東京大学出版会

佐藤仁『開発協力のつくられ方』東京大学出版会

山田順一『インフラ協力の歩み』東京大学出版会

JICA緒方貞子開発研究所『今日の人間の安全保障』JICA

伊藤亞聖『デジタル化する新興国』中公新書

学生に対する評価

定期試験（70%）、出席と授業への参加状況（30%）

授業科目名： 社会学のあゆみI	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 流王 貴義
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業のテーマは「近代社会の変容と社会学の成立」です。到達目標は以下の2つです。1) 社会学という学問が成立した歴史的背景を理解する。2) 19世紀ヨーロッパの社会学者が提唱した社会学の基本的な概念・学説の内容を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>19世紀のヨーロッパとは、政治的自由・経済的自由という近代社会の理念の実現が試みられただけでなく、そのような自由を無自覚に実現しようとするだけでは、弊害が伴うことも意識された時代です。社会学とは、自由という理念に積極的な価値を認めると同時に、その弊害を意識化し、社会の新たな組織化・合理化を試みた発想の中から生まれました。しかし19世紀の後半になると社会学は、自由に伴う弊害を国家により是正しようとする発想に潜む弊害、加えて組織化・合理化という試みそのものに伴う弊害も意識するに至りました。この講義では、社会学という学問が成立した経緯を、その背景となる19世紀ヨーロッパの社会的・思想的状況に関連づけながら考察を加え、私たちが直面している現実と社会学の基本的な概念・学説とを新たに関係づけるための基礎を提供します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義の概要，社会学史を学ぶ意義</p> <p>第2回：近代社会の構成原理</p> <p>第3回：フランス革命とその理想</p> <p>第4回：フランス革命後の現実</p> <p>第5回：社会の再組織化の試み（コント）</p> <p>第6回：産業化とその影</p> <p>第7回：資本主義の下での労働（マルクス 1）</p> <p>第8回：資本主義の展開（マルクス 2）</p> <p>第9回：資本主義への批判（マルクス 3）</p> <p>第10回：自由と社会統合（デュルケム 1）</p> <p>第11回：社会学の方法論的立場I（デュルケム 2）</p>			

第12回：フランス社会の再建に向けて（デュルケム 3）

第13回：近代資本主義の社会的基盤（ウェーバー 1）

第14回：近代資本主義の世界（ウェーバー 2）

第15回：前期のまとめ

定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

那須壽編，1997，『クロニクル社会学』有斐閣。

新睦人編，2006，『新しい社会学のあゆみ』有斐閣。

奥井智之，2010，『社会学の歴史』東京大学出版会。

奥村隆，2014，『社会学の歴史I』有斐閣。

松野弘編，2020，『社会学史入門』ミネルヴァ書房。

その他は授業中に適宜紹介します。

学生に対する評価

定期試験（60%）、平常点（40%）

授業科目名： 社会学のあゆみII	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 流王 貴義
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 この授業のテーマは「現代社会と社会学の展開」です。到達目標は以下の3つです。1) 20世紀における社会学の展開を、同時代の歴史に関連づけながら理解する。2) 20世紀の社会学者が提唱した社会学の基本的な概念・学説の内容を理解する。3) 社会学の歴史的な展開を踏まえ、現代社会の現実を自分なりに把握する思考の枠組みを形成する。			
授業の概要 20世紀前半の西洋社会とは、組織化・合理化に伴う弊害やその失敗が実際に露見した時代です。そのような時代において社会学は、他の学問の知見を新たに取り入れながら、近代社会の社会的基礎を再検討するに至りました。ただ、第2次世界大戦終結後の西洋社会においては、大衆社会化と官僚制国家の肥大化とが同時並行的に進展する一方、経済的繁栄の下で組織化・合理化に伴う問題が一時的に忘れられる状況となりました。しかし1970年代からは、再び国家を中心とした組織化・合理化に伴う問題が意識化されると同時に、近代社会を相対化する視点が強く意識されるようになります。加えて21世紀になると、経済のグローバル化により、国家そのものの相対化が進み、近代社会を支える背景が揺らぎつつある状況に突入しています。この講義では、社会学という学問の展開を、西洋を中心とした現代社会の様相と関連づけながら考察を加え、現代社会を歴史的に捉えるための基礎を提供します。			
授業計画 第1回：講義の概要 第2回：社会学の方法論的立場II（ウェーバー3） 第3回：ヨーロッパにおける合理主義（ウェーバー4） 第4回：世界大戦の衝撃 第5回：神々の闘争を超えて（ウェーバー5） 第6回：視野の相対性（マンハイム） 第7回：独裁の社会的基礎（フロム） 第8回：ナチス支配下の社会 第9回：理性に対するまなざし（ホルクハイマー、アドルノ）			

第10回：社会学による総合の試み（パーソンズ） 第11回：中範囲の理論という発想（マートン） 第12回：豊かさのなかの社会（ミルズ、リースマン） 第13回：近代社会の批判的相対化（レヴィ=ストロース、フーコー） 第14回：理性の復権の試み（ハーバーマス） 第15回：後期のまとめ 定期試験
テキスト 特に指定しない。
参考書・参考資料等 那須壽編，1997，『クロニクル社会学』有斐閣。 新睦人編，2006，『新しい社会学のあゆみ』有斐閣。 奥井智之，2010，『社会学の歴史』東京大学出版会。 奥村隆，2014，『社会学の歴史I』有斐閣。 松野弘編，2020，『社会学史入門』ミネルヴァ書房。 その他は授業中に適宜紹介します。
学生に対する評価 定期試験（60%）、平常点（40%）

授業科目名： ミクロ経済学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 二村真理子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学の基礎的な概念と理論を正確に理解する。 ・市場メカニズムの機能と限界を理解する。 ・概念や理論と現実の経済の動きを比較対照する姿勢を身につける。 ・概念や理論を現実に応用しようとする姿勢を身につけ、経済に対する問題意識を持つ。 			
授業の概要			
<p>経済全体の動きを大きく捉えようとするマクロ経済学に対して、ミクロ経済学は消費者や企業による消費や生産という身近な経済活動を出発点として、希少な資源の有効活用という問題に対して市場がどのような働きをしているのかを分析するものである。「ミクロ経済学入門」では、経済学を専門としない学生も対象として、経済学的な考え方に慣れ親しむことから始める。その上で、基本的なミクロ経済学の知識を身に付け、現実の経済についての理解を深めることを目指す。</p>			
授業計画			
第1回： イントロダクション — ミクロ経済学を学ぶ			
第2回： 需要と供給 I — 需要曲線			
第3回： 需要と供給 II — 供給曲線			
第4回： 市場均衡			
第5回： 市場の効率性と政府介入			
第6回： 市場の失敗と政府の役割 I — 市場の失敗			
第7回： 市場の失敗と政府の役割 II — 外部性			
第8回： 市場の失敗と政府の役割 II — 公共財			
第9回： 企業行動と財の供給 I — 完全競争市場			
第10回： 企業行動と財の供給 II — 独占			
第11回： 消費者行動と財の需要 I — 消費者行動の定式化			
第12回： 消費者行動と財の需要 II — 予算制約と消費選択			
第13回： 競争均衡と効率的資源配分 I — 財の配分とパレート効率性			
第14回： 競争均衡と効率的資源配分 II — 競争均衡と経済厚生			

第15回： ゲーム理論

定期試験

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

井堀利宏（2019）『入門ミクロ経済学』第3版，新世社.

安藤至大（2021）『ミクロ経済学の第1歩』，有斐閣ストゥディア.

学生に対する評価

定期試験（80%），授業内に行う課題（20%）

授業科目名： マクロ経済学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白砂 提津耶
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学の基本的な用語、概念、理論を習得する。 ・複雑な現象を「抽象化」して理解する方法に慣れていく。 ・身近な経済現象をシステムとして捉えることができるようになる。 ・国境を越えて連関する日米の経済問題や危機の波及プロセスを理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>私たちの生活は民間企業の活動と政府による公共サービスや社会保障等に支えられている。そうしたモノやサービスの動きを助けているのが金融である。一方、グローバル化の進展にともない、他国で発生した金融危機や感染症パンデミックや戦争は国境を越えて波及し、日本の経済を混乱させ経済格差を増幅させている。本講義では、ひとつの国の経済全体の動きを分析する「マクロ経済学」の基礎を学び、グローバルな視野を持って日本経済の動向と課題を理解する力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：経済をマクロの視点とグローバルの視点で見るとは～一国経済の健康状態を診断するポイント（経済成長率、株価、インフレーション、為替レート、国際収支、財政収支、金利）</p> <p>第2回：日米経済のパフォーマンス比較(1)1980年代 日米貿易摩擦、プラザ合意、バブル経済</p> <p>第3回：日米経済のパフォーマンス比較(2) 1990年代 日本のバブル崩壊、長期不況、ゼロ金利政策から量的緩和政策へ</p> <p>第4回：日米経済のパフォーマンス比較(4) 米国のサブプライムローン問題から世界金融危機へ</p> <p>第5回：日米経済比較のまとめとグローバル経済の行方</p> <p>第6回：国民経済計算：GDPとは</p> <p>第7回：マクロ経済循環：GDPの三つの側面（生産・分配・支出）</p> <p>第8回：GDPで測れるもの・測れないもの+さまざまな物価指数</p> <p>第9回：マクロ経済分析の基本的枠組みー(1)マクロ経済学における「短期」</p> <p>第10回：マクロ経済分析の基本的枠組みー(2)マクロ経済学における「長期」と「超長期（経済成長論）」</p>			

<p>第1 1回：所得はどのように決まるのかー(1)財市場における消費関数と投資関数</p> <p>第1 2回：所得はどのように決まるのかー(2)ケインズの有効需要の原理</p> <p>第1 3回：所得はどのように決まるのかー(3)財政政策と乗数</p> <p>第1 4回：所得はどのように決まるのかー(4)乗数の波及効果、インフレギャップとデフレギャップ</p> <p>第1 5回：まとめ</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>中谷巖、下井直毅、塚田裕昭（2021）『マクロ経済学入門（第6版）』日本評論社【最新版】</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>井堀利宏（2022）『サクッとわかるビジネス教養 経済学』新星社、平口良司・稲葉大（2020）『マクロ経済学 [新版] - 入門の一步前から応用まで』有斐閣ストゥディア、グレゴリー・マンキュー（2019）『マンキュー 入門経済学 [第3版]』東洋経済新報社、後藤謙次（2018）『10代に語る平成史』岩波ジュニア新書、池上彰（2017）『改訂新版 日銀を知れば経済がわかる』平凡社新書、池上彰（2013）『池上彰のやさしい経済学(1)(2)』日経ビジネス人文庫、ティモシー・テイラー（2013）『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門（ミクロ編）（マクロ編）』かんき出版、竹信三恵子（2010）『女性を活用する国、しない国』岩波ブックレットNo. 791、大沢真理（2010）『いまこそ考えたい生活保障のしくみ』岩波ブックレットNo. 790、堤美果『ルポ 貧困大国アメリカ』（『ルポ 貧困大国アメリカ II』、『(株) 貧困大国アメリカ』岩波新書など。</p>
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験(Exam during exam period) 50% ・ その他(Other) 宿題として、また、授業内で出される課題の提出と出席を総合し評価する（合計50%）

授業科目名： 文化人類学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校社会）、 必修科目（高等学校公民）	単位数： 2単位	担当教員名： 玉井隆 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：文化人類学の基礎-1（理論編）</p> <p>到達目標：</p> <p>(1) 文化人類学の基本的な学説史と主要テーマを学ぶことで、異なる他者やその文化について、文化人類学的な視点を以て理解することができる。</p> <p>(2) 様々な文化に関する民族誌的知見を踏まえ、自分の文化を相対的にとらえ考察することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>世界には、私たちが慣れ親しんだことのない数多くの文化が存在する。例えば結婚の仕方、家族のあり方、お金やモノのやり取り、宗教行事、理想とする身体や医療の仕組みなどについて、私たちの「当たり前」が通用しないことがある。そうした私たちと異なる慣習や制度、行動や認識の仕方について、私たちはどのように深く理解することができるのだろうか。私たちはどうすれば、様々な文化を尊重し、共に生きていくことができるのだろうか。</p> <p>この授業では、こうした異文化理解や多文化共生をめぐる疑問について考えるために、文化人類学の基礎を学ぶ。議論の対象となるのは、異なる地域・時代における様々な文化であり、その共通性と多様性を探求する。その上で、自分と異なる他者を理解すると同時に、自文化を相対的に理解し問い直す、文化人類学的な視点を身につける。</p> <p>授業は前半と後半に分かれている。前半では、文化人類学とは何か、文化人類学が文化をどのようにとらえ検討してきたのか、その学問的な系譜をたどる。後半では、文化人類学において長く議論されてきたテーマとして、交換・経済、親族・家族・親子関係、儀礼、宗教と呪術、民族と国家等を取り上げ、その現代的な課題を明らかにしていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：【文化とは何か①】自文化と異文化の境界を考え議論する。</p> <p>第2回：【文化とは何か②】文化人類学の始まりと文化進化論を学ぶ。</p> <p>第3回：【文化とは何か③】文化相対主義とは何かを学ぶ。</p> <p>第4回：【文化とは何か④】文化相対主義が抱える問題を議論する。</p>			

<p>第5回：【民族誌とは何か①】民族誌とは何かについて、B.マリノフスキ『西太平洋の遠洋航海者』を例として学ぶ。</p> <p>第6回：【民族誌とは何か②】フィールドワークの意義と方法について、教員の調査経験を例として検討する。</p> <p>第7回：【民族誌とは何か③】「他者」について描くことの問題や難しさについて、オリエンタリズム批判とその応答を中心に学ぶ。</p> <p>第8回：【交換・経済①】クラ交換、ポトラッチ、石の貨幣などを事例に、多様な経済社会システムを学ぶ。</p> <p>第9回：【交換・経済②】地域通貨、シェアリングエコノミーなどを事例に、現代の経済社会システムを考える。</p> <p>第10回：【親族・家族・親子関係①】親族理論とその用語、また親族研究に対する批判について具体的に紹介する。</p> <p>第11回：【親族・家族・親子関係②】家族の絆をめぐる問題や生殖技術の変化を踏まえ、現代の家族の多様なあり方を考える。</p> <p>第12回：【儀礼】儀礼の意味や種類、機能、象徴性などを概説しながら、世界の多様な儀礼がその社会に果たす役割を考える。</p> <p>第13回：【宗教と呪術】呪術・妖術からスピリチュアリティや癒しにいたる多様な事例をもとに、宗教的実践の現代的意義を考える。</p> <p>第14回：【民族と国家】民族、人種、国民といった言葉の違いを踏まえ、民族の違いとそのダイナミックな変化を学ぶ。</p> <p>第15回：【総括】これまでの議論を振り返り、多文化共生とは何か、その可能性と課題を考える。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(1) 竹沢尚一郎『人類学的思考の歴史』（世界思想社、2007年）。</p> <p>(2) 岸上信啓（編）『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い—』（ミネルヴァ書房、2018年）。</p> <p>(3) 梅屋潔・シンジルト（編）『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発—』（学陽書房、2017年）。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>期末レポート（50%）、リアクションペーパー（50%）</p>

授業科目名：文化人類学Ⅱ	教員の免許状取得のための選択科目（中学校社会）、必修科目（高等学校公民）	単位数：2単位	担当教員名：玉井隆 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：文化人類学の基礎-2（実践編）</p> <p>授業内で議論される多様な課題に対して、自分で具体的な分析対象を設定し、文化人類学的視点からそれを考察することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、文化人類学的な視点に基づき、現代社会の抱える諸課題を読み解くことを目的としている。具体的には「困難を生きる」「健康に生きる」「共に生きる」「未来を創る」という4つの大きなテーマを設定し、それぞれのテーマに即した具体的な検討課題を議論する。いずれの課題を読み解くうえでも、「私たち」が当たり前と思う物事を相対化し問い直す作業に重点を置きながら議論を行う。テキストにある文章は比較的平易で短いながらも、「私たち」と異なる文化の論理や人々の実践を理解するためのヒントが盛り込まれており、私たちの想像力を押し広げる一助となる。本授業は、全員がテキストの定められた範囲を予め読んでいることを前提にして、教員がそこで用いられる概念について説明を加えたり、補助線を引いたり、新たな具体例を提示したりしながら行われる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：授業の内容・方法を説明する。</p> <p>第2回：【困難を生きる】貧困（1）誰がどのように貧しさを測るのか。</p> <p>第3回：【困難を生きる】貧困（2）人々は貧しさをどのように認識し、対処するのか。</p> <p>第4回：【健康に生きる】うつ（1）「心の病い」はどのように捉えられ、対処されてきたのか。</p> <p>第5回：【健康に生きる】うつ（2）新健康主義は人々を救うのか。</p> <p>第6回：【健康に生きる】感染症（1）なぜ途上国では感染症がより重大な問題となるのか。</p> <p>第7回：【健康に生きる】感染症（2）どうすれば感染症と共に生きられるのか。</p> <p>第8回：【共に生きる】性愛：どのように他者と向き合うのか。</p> <p>第9回：【共に生きる】食と農業：どうすれば豊かな食生活が実現するのか。</p> <p>第10回：【共に生きる】政治：全員一致はいつ・どのようにして可能となるのか。</p> <p>第11回：【共に生きる】自由：ケアはどのように自由を生み出すのか。</p>			

第12回：【共に生きる】分配と価値：「正当な分け前」とその価値はどのように決まるのか。
 第13回：【未来を創る】SNS：どうすればSNSを活かして自由に生きることができるのか。
 第14回：【未来を創る】エスノグラフィ：新たなエスノグラフィは可能か。
 第15回：【未来を創る】総括：これまでの議論を整理したうえで、人類学から見る世界のあり様を議論する。

テキスト

春日直樹・竹沢尚一郎（編）（2021）『文化人類学のエッセンス—世界を見る／変える—』有斐閣。

参考書・参考資料等

- （1）松村圭一郎・中川理・石井美保（編）（2019）『文化人類学の思考法』世界思想社。
- （2）前川啓治・箭内正ほか（2018）『21世紀の文化人類学—世界の新しい捉え方—』新曜社。

学生に対する評価

期末レポート（55%）、リアクションペーパー（45%）

授業科目名： 東アジア社会基礎論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高江洲昌哉
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 近現代の東アジア地域の特徴を理解する。</p> <p>(2) 日本の近代化の過程とその特徴を理解する。</p> <p>(3) 沖縄・アイヌ・在日朝鮮人などの歴史や社会・文化を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は東アジア地域を研究していくための基礎知識の習得を目指す。地域研究とはいえ、現在だけにとらわれるのではなく、歴史的視点からの考察をおこなう。ちなみに、本講義が対象とする時期は近現代であるが、東アジアの近現代を一言で整理すると、清を中心とする「中華秩序」の変容過程と、所謂「西洋の衝撃」から日清戦争にいたる植民地化の進展と新旧帝国の交代を経て、東アジアの近代社会が成立する。その後、アジア・太平洋戦争（第2次世界大戦）を経て、帝国の終焉・脱植民地・冷戦の成立という形で、東アジア現代社会が形成される。本講義は、アイヌ・沖縄・在日朝鮮人などマイノリティや周辺地域にも目配りをしながら、社会を複眼的に捉える視座の獲得を目指す。そのため、本講義で掲げる基礎知識とは、大日本帝国の遺産と冷戦にともなう産物の「不均衡な秩序」によって規定された存在に対し理解することを目的とするものである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の目的と内容</p> <p>第2回：日本における「東アジア」論の系譜</p> <p>第3回：東アジアとジェンダー</p> <p>第4回：東アジア近代世界の形成</p> <p>第5回：明治維新と「国境」画定問題</p> <p>第6回：「琉球処分」の遂行と遺産</p> <p>第7回：アイヌから見た近代日本</p> <p>第8回：植民地帝国の形成</p> <p>第9回：東アジアの1930年代</p>			

第10回：東アジア現代社会の形成

第11回：「奄美」から考える

第12回：「在日朝鮮人」問題を考える

第13回：東アジアの米軍基地（基地と社会の関係）

第14回：まとめ

第15回：試験と講評

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

丸川哲史『ブックガイドシリーズ基本の30冊 東アジア論』（人文書院、2010年）

丸川哲史『冷戦文化論』（論創社、2020年）

坪井秀人編『東アジアの中の戦後日本』（臨川書店、2018年）

レオ・チン『反日ー東アジアにおける感情の政治』（人文書院、2021年）

早尾貴紀・呉世宗・趙慶喜『残余の声を聴く』（明石書店、2021年）

川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）

麓慎一『一九世紀後半における国際関係の変容と国境の形成』（山川出版社、2023年）

C・グラックほか『日本の歴史25 日本はどこへ行くのか』（講談社学術文庫、2010年）

小笠原信之『アイヌ近現代史読本 増補改訂版』（緑風出版、2019年）

鹿野政直『沖縄の戦後思想を考える』（岩波現代文庫、2018年）

尹海東『植民地がつくった近代』（三元社、2017年）

岩崎稔ほか『継続する植民地主義』（青弓社、2005年）

学生に対する評価

授業内課題（30%）、レポート（35%）、試験（35%）

授業科目名：アメリカの社会と文化（アメリカ社会基礎論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石井 紀子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：人物を通してみるアメリカの社会と文化</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 植民地時代から現代に至るアメリカ社会の理念や価値観の形成と変遷の概要を理解できる。 2) 英語の一次資料を読み、分析することができる。 			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アメリカ合衆国の歴史と文化を創った人物の自叙伝や伝記の抜粋を読む。 2) 大きなアメリカ史の流れがその人物の人生をどのように規定してきたのかを考察する。 3) 自叙伝の抜粋を一次史資料として読み、自叙伝がその時代、出来事をどのように表現しているかを分析する能力を養う。 4) その人物の思想や業績がどのようにアメリカ社会の理念、文化や価値観の形成に貢献したかを考える。 5) 英文の速読力を伸ばす。（受講生に応じて柔軟に対応する。） 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに</p> <p>第2回：「代表的アメリカ人」 ベンジャミン・フランクリン(1706-1790)の自叙伝より</p> <p>第3回：「富の福音」 アンドリュー・カーネギー(1835-1910)の自叙伝より</p> <p>第4回：「大量生産」 ヘンリー・フォード(1863-1947)の自叙伝より</p> <p>第5回：「セツルメント運動」 ジェイン・アダムズ(1869-1935)の自叙伝より</p> <p>第6回：「アメリカの夢を売る」</p>			

<p>ウォルト・ディズニー(1901-1966)の伝記より 第7回：「バス・ボイコット事件」 ローザ・パークス(1913-2005)の自叙伝より 第8回：「コミック、ピーナッツ、凡人のアメリカ少年」 チャールズ・M・シュルツ(1922-2000)の自叙伝より 第9回：「公民権運動、人種とイスラム教」 マルコムX(1925-1965)の自叙伝から 第10回：「非暴力主義とベトナム」 マーチン・ルーサー・キング・ジュニア(1929-1968)の自叙伝より 第11回：「ノートルアス RBG」 ルース・B・ギンズバーグ(1933-2020)の自叙伝より 第12回：「アジア系とハリウッド、LGBT」 ジョージ・タケイ(1937-)の自叙伝より 第13回：「創造性と禅」 スティーブ・ジョブズ(1955-2011)の伝記より 第14回：「21世紀のアメリカとトランプ」 ドナルド・J・トランプ(1946-)の自叙伝より 第15回：「初めての黒人大統領」 バラック・オバマ(1962-)の自叙伝より 定期試験</p>
<p>テキスト （google classroom等を通して）自叙伝の抜粋をテキストとして提供する。</p>
<p>参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。</p>
<p>学生に対する評価 期末試験（40%）、平常点（30%）、その他（宿題の提出状況と出来栄）（30%）</p>

授業科目名： 現代アメリカの動態	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 湯浅成大
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標： 多文化社会である現代アメリカ社会を構造面、現象面、歴史面から幅広く理解する力を養う。 アメリカにおける人種・エスニシティの多様性と問題点を理解する力を養う。			
授業の概要：アメリカにおける人種とエスニシティの問題を中心に、そこから派生する様々な問題について概説する。アメリカ社会の多様性、多文化主義について解説する。			
授業計画 第1回：アメリカの人種問題のルーツ 第2回：公民権運動の意義と限界 第3回：アフターマティブ・アクション論争 第4回：人種問題と経済問題 第5回：ブラック・ライブズ・マター運動の意義 第6回：移民問題の歴史的展開 第7回：新移民とアメリカ社会 第8回：ヒスパニック系移民の増加 第9回：オバマ政権トランプ政権の意味印政策 第10回：アジア系移民とアメリカ社会 第11回：アメリカ社会における多民族共存装置 第12回：多文化主義と人種・民族 第13回：多文化主義と教育 第14回：アメリカ社会の格差問題と白人問題 第15回：グローバリズムとアメリカ社会 定期試験			
テキスト：渡辺靖編「現代アメリカ」（有斐閣アルマ）			
参考書・参考資料等：西山隆行『移民大国アメリカ』（ちくま新書） ホーン川嶋瑤子『アメリカの社会改革』（ちくま新書）			
学生に対する評価：定期試験（67％）と中間レポート（33％）			

授業科目名： 南アジア社会特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇野彩子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 南アジアにおける宗教と歴史の関わり			
授業の概要 このコースでは、南アジアの文化の特質としての宗教的基盤と多様性についての理解を深めるために1947年のインドとパキスタンの分離独立に焦点を当てて、今日に至る「宗教的」対立問題（南アジアではコミュニズムという）の根について検討する。さらに分離に反対した「独立の父」マハートマ・ガンディーを取り上げて、ガンディーにとっての宗教とは何かを考え、現代世界における異宗教間の和解への展望を模索していく。			
授業計画 第1回：イントロダクション：インドとパキスタンの敵対関係の根 第2回：分離独立の悲劇：オーラルヒストリーや「動乱文学」を手がかりに 第3回：南アジアにおける伝統的枠組みと宗教 第4回：現代南アジアにおけるコミュニズム 第5回：コミュニズムの成り立ちと植民地支配 第6回：コミュニズムの展開：ヒンドゥー・ナショナリズムは宗教的か？ 第7回：植民地支配への応答としてのナショナリズムとコミュニズムの相克 第8回：パキスタン独立の父、M.A.ジンナーの目指した理想とは 第9回：M.K.ガンディーの生涯：真理実験の物語 第10回：ガンディーの「近代文明批判」を読む 第11回：ガンディーとサッティヤーグラハ 第12回：分離独立に反対して行動したガンディー 第13回：ムスリムの指導者アブドゥル・ガッファー・カーンと非暴力 第14回：ガンディーの遺産：M.L.キング牧師（キリスト教）、ダライ・ラマ（チベット仏教）など 第15回：現代日本に生きる私たちとガンディー思想（まとめ） 期末レポートを課題としています。			

テキスト

M. K. ガンジー 『ガンジー自叙伝』 (中公文庫、1983 年)

M. K. ガーンディー 『真の独立への道 (ヒンド・スワラージ)』 (田中敏雄訳、岩波書店 2001 年)

ウルワシー・ブターリア著、藤岡恵美子訳 『沈黙の向こう側——インド・パキスタン分離独立と引き裂かれた人々の声』 (明石書店、2002 年)

参考書・参考資料等

小川忠 『ヒンドゥー・ナショナリズムの台頭——軋むインド』 (NTT 出版、2000 年)

Urvashi Butalia *The Other Side of Silence-- Voices from the Partition of India* (Hurst & Co., 2000)

長崎暢子 『インド、国境を越えるナショナリズム』 (岩波書店、新世界事情、2006 年)

中島岳志 『ヒンドゥー・ナショナリズム——印パ緊張の背景』 (中公新書ラクレ 57、2002 年)

中島岳志 『インドの時代——豊かさと苦悩の幕開け』 (新潮社 2006 年)

森本達雄 『ヒンドゥー教——インドの聖と俗』 (中公新書 1707、2003 年)

荒松雄 『ヒンドゥー教とイスラム教——南アジア史における宗教と社会』 (岩波新書、黄版 8、1977 年)

Eknath Easwaran, *A Man to Match His Mountains: Badshah Khan, Nonviolent Soldier of Islam* (Nilgiri Press, 1984)

学生に対する評価

平常点 (出席やコメントシートの内容) 40%、中間レポート (10%)、期末レポート (50%) で成績をつけます。

授業科目名： イスラム社会特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 辻上奈美江 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><授業のテーマ></p> <p>本授業では、主に講義形式で行う。講義では、ジェンダーの視点から中東アラブ地域を中心とするイスラム社会の社会的・文化的を理解することを目的としている。</p> <p><到達目標></p> <p>①ジェンダーに関する基本的な概念を理解し、それを有機的に自らの生活に採り入れることができる</p> <p>②近代以降のフェミニズムの展開を理解し、自らの言葉で、ジェンダーの視点から近代を語るすることができる</p> <p>③中東地域におけるジェンダーの諸問題の特徴を的確に理解し、それらを自分の言葉で説明できる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では中東地域の近現代史におけるフェミニズム運動、法整備などをもとに、女性の「生」を考えます。講義を通じて、オリエンタリズムやわれわれの眼差しを見直す機会を提供します。</p>			
<p>授業計画（※受講生数やレベルによって授業内容に若干の変更の可能性がある）</p> <p>第1回：イントロダクション（授業の受け方、参考文献と探し方、授業評価方法）</p> <p>第2回：中東地域の気候、地理、産業</p> <p>第3回：中東地域の民族、宗教</p> <p>第4回：イスラームとイスラームが規定するジェンダー</p> <p>第5回：近代西洋と中東アラブ地域</p> <p>第6回：植民地主義とオリエンタリズム</p> <p>第7回：独立運動と家族法</p> <p>第8回：中間テスト</p> <p>第9回：民族主義とイスラーム復興／イスラーム主義</p> <p>第10回：服装：フランスのヴェール着用が意味するもの1（視聴覚教材）</p>			

第11回：服装：フランスのヴェール着用が意味するもの2（議論）

第12回：表象：「アフガン・ガール」の表象

第13回：移民・難民とジェンダー1

第14回：移民・難民とジェンダー2

第15回：総括

定期試験

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

授業時間内に指定する

学生に対する評価

授業参加、中間試験、期末試験などから総合的に判断する

授業科目名： 民族誌特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小田島理絵 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 研究の方法論と特徴を学び、社会課題の分析に活かす方法を掴む。 2. 世界の多様な文化社会に関する基礎的知識を集積する。			
授業の概要			
民族誌とは、①フィールドワークを基盤とした世界の諸文化に関する研究方法論であり、②その方法論を用いた文化の諸相に関する記述・描写を指す。この授業では、民族誌の二側面を総合的に学ぶ。			
授業計画			
第1回：イントロダクションー民族誌を学ぶ意義・目的ー			
第2回：民族誌の誕生			
第3回：フィールドワークとしての民族誌ーどのような視座で何を行うかー			
第4回：フィールドワークを基にした民族誌の特徴ー何が描かれているのかー			
第5回：フィールドワークと文化相対主義ー調査者の視座ー			
第6回：フィールドワークとフィールドー被調査者の視座ー			
第7回：フィールドワークとジェンダーー調査者と被調査者の位置づけー			
第8回：フィールドワークと分析法（1）ーエティックとエミクー			
第9回：フィールドワークと分析法（2）ーフィールドの歴史性ー			
第10回：フィールドワークと分析法（3）ー文化の複数性と解釈ー			
第11回：民族誌の課題と新しい試み			
第12回：今日の民族誌（1）ー世界の事例から学ぶー			
第13回：今日の民族誌（2）ー日本の事例から学ぶー			
第14回：今日の民族誌（3）ー民族誌を社会的課題に活かすー			
第15回：まとめー民族誌の将来ー			
定期試験			
テキスト	教科書は指定しない。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、資料を配布する。		
学生に対する評価			
1. 期末レポート(60%)			
2. 平常点（毎回の授業でのコメントシートを通した授業参加と授業内容の習熟）(20%)			

3. その他（学期途中の小課題）（20%）

授業科目名： 人権・人道の人類学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小田島理絵 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 1. 国際社会における人権の概念・人道活動の流れを掴む。 2. 世界各地における人権・人道の状況を学ぶ。			
授業の概要 この授業では、世界各地における人間・権利・道徳・支援という考え方を学びながら、国際的な人間の権利、人道の考え方と行動が生まれ、共有される経緯を学ぶ。多様性を含む世界において、分断ではなく、相互の尊重と協力の端緒を掴むための思索・考察を行っていく。			
授業計画 第1回：はじめに—この授業の目的— 第2回：日本と道徳・人権・人道 第3回：国際的な人権・人道 第4回：1990年代以後の人権・人道 第5回：地域的な人権宣言—東南アジア諸国連合の場合— 第6回：人権宣言と経緯（1）—東南アジア諸国連合における諸議論— 第7回：人権宣言と経緯（2）—東南アジア諸国連合における内戦— 第8回：人権宣言と経緯（3）—東南アジア諸国連合における人道活動— 第9回：在来社会における道徳（1）—共同体と相互扶助— 第10回：在来社会における道徳（2）—各文化に備わる生存倫理— 第11回：市民社会と助け合い（1）—新たな支援の仕組み— 第12回：市民社会と助け合い（2）—個人主義と市民の連帯— 第13回：文化をもつという権利 第14回：文化相対主義・反文化相対主義・反=反文化相対主義 第15回：おわりに—ともに生きる— 定期試験			
テキスト	教科書は指定しない。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、資料を配布する。		
学生に対する評価 1. 期末レポート(60%)			

2. 平常点（毎回の授業でのコメントシートを通じた授業参加と授業内容の習熟）（20%）
3. その他（学期途中の小課題）（20%）

授業科目名： 民族と現代世界	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 玉井隆 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：世界の地域・文化・社会と保健医療</p> <p>到達目標：医療人類学の基礎を学ぶことで、医療をめぐる世界各地の様々な文化的・社会的事象について、事例をあげながら具体的に考察することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、世界のさまざまな文化とそのダイナミックな変化について、医療人類学の基礎を学ぶことで議論することを目的としている。医療人類学とは、病気や健康、あるいは生き、障害を抱え、老い、病み、死ぬことを対象とした文化人類学的研究のことをここでは指す。人間が医療や病い、健康等に関して何を「問題」として認識し対処するかは、時代と場所に応じて、あるいは民族や国家、人種などの違いに応じて異なる。私たちが「当たり前」と思う近代医療に基づく知識と経験だけがその「答え」ではない。さらには近代医療自体も、よりマクロな政治経済的な影響、あるいは技術革新によりその内実は日々更新されている。本授業は、こうしたダイナミックな変化にさらされる現代世界の保健医療をめぐる事象について、さまざまな切り口から触れ、皆で議論するものである。</p> <p>授業は前半と後半に分かれている。授業の前半は、医療人類学の基礎的な内容を、特に日本国外の事例を提示しながら講義する。授業の後半では、講義内容を踏まえつつ、履修者全員がグループに分かれ、医療人類学的テーマについて各グループが独自に考察した成果を、日本以外の事例を用いながら発表し皆で議論する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：【イントロダクション】授業の概要、目的等を説明する。</p> <p>第2回：【病気】病気とは何か、また病気の認識や治療探求行動、それらダイナミックな変化を議論する。</p> <p>第3回：【呪術／憑依／シャーマニズム】近代・現代における呪術の現れと意味、憑依儀礼、「風変わりな」医者としてのシャーマンについて議論する。</p> <p>第4回：【近代医療-1】歴史学における帝国医療批判について、アフリカ諸国を事例に議論する。</p> <p>第5回：【近代医療-2】グローバル化と近代医療について、さまざまな感染症の感染拡大を事例に議</p>			

論する。

第6回：【リプロダクション】世界の様々な出産とそのあり方や変化を議論する。

第7回：【リプロダクション／女性の身体】出産をめぐるテクノロジーの変化と、それによる人々の経験を議論する。

第8回：研究発表の準備（グループ分け、テーマ・問いの設定等）

第9回：【老い】老いの意味、ライフサイクル、老人観の変化について議論する。

第10回：【精神と心】文化結合症候群と呼ばれる一連の病いとその変化を議論する。

第11回：【健康】これまでの講義を踏まえ、健康とは何か、なぜ健康でなければならないのかを考える。

第12回：研究発表の準備（プレゼンテーションの作成）

第13回：研究発表と討論-1

第14回：研究発表と討論-2

第15回：研究発表と討論-3

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

池田光穂・奥野克巳（編）『医療人類学のレッスン』（学陽書房、2007年）。

澤野美智子（編）『医療人類学を学ぶための60冊—医療を通して「当たり前」を問い直そう—』（明石書店、2018年）。

ヘルマン、セシル『ヘルマン医療人類学』（金剛出版、2018年）。

Good, Byron J., Michael M. J. Fischer, Sarah S. Willen and Mary-Jo DelVecchio Good (eds.) 2010. "A Reader in Medical Anthropology: Theoretical Trajectories, Emergent Realities". Wiley-Blackwell.

学生に対する評価

期末レポート（55%）、リアクションペーパー（45%）

授業科目名： 周縁世界とグローバル化I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小田島理絵 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 1. グローバル化に係る課題と格差の要因を多側面から考える視座を培う。 2. 質的研究の視座・方法を培う。			
授業の概要 この授業では、世界の拡大に起因して生じる文化社会の中心と周縁関係、格差の体系を考えていく。前半部では、グローバル化の歴史経済的背景と要因を年代順に考える。後半部では、世界的規模で人間が移動する現象と諸課題を考える。			
授業計画 第1回：イントロダクションーグローバル化と格差ー 第2回：大航海時代とその前後 第3回：新大陸の「発見」と交易 第4回：大陸間の商品の流れ 第5回：アジアにおける食品の流れ 第6回：アメリカ化の議論とグローバル化に対する様々な反応 第7回：アジア発のグローバル化現象 第8回：グローバル商品とジェンダーの関わり 第9回：反グローバル化現象 第10回：グローバルな人間の移動と観光 第11回：世界における観光と諸課題 第12回：アジアにおける観光と諸課題 第13回：日本における観光と諸課題 第14回：観光における格差是正の取り組み 第15回：まとめー課題分析と解決の焦点ー 定期試験			
テキスト	教科書の指定はしない。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、資料を配布する。		
学生に対する評価			

1. 期末レポート(60%)
2. 平常点 (毎回のコメントシートを通した授業参加と授業内容の習熟) (20%)
3. その他 (小課題) (20%)

授業科目名： 周縁世界とグローバル化II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小田島理絵 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 1. 国際的課題と格差を多側面から考え、分析する視座を培う。 2. 質的研究の視座・方法を培う。			
授業の概要 世界の共通目標である持続可能な発展の実現のためには、文化の保護・保全は重要な課題の一つである。文化保護・保全と開発に関する国際連合の動向をふまえつつ、開発と文化の状況を実例から学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクションー持続可能な発展に向けてー 第2回：平和維持の役割と国際連合 第3回：開発の潮流と国際連合 第4回：文化保護と国際連合 第5回：文化保護に関わる条約 第6回：文化保護の南北問題 第7回：文化遺産の多様化 第8回：文化遺産と貧困国 第9回：ケーススタディ（1）文化遺産と経済開発 第10回：ケーススタディ（2）文化遺産と地方格差 第11回：ケーススタディ（3）持続可能な管理とは 第12回：ケーススタディ（4）文化遺産と国家政策 第13回：ケーススタディ（5）明治期以後の日本の文化保全制度 第14回：ケーススタディ（6）遺産観光の諸課題 第15回：まとめー持続可能な発展に向けてー			
定期試験			
テキスト	教科書はとくに指定しない。		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、資料を配布する。		
学生に対する評価			

1. 期末レポート(60%)
2. 平常点 (毎回のコメントシートを通した授業参加と授業内容の習熟) (20%)
3. その他 (小課題) (20%)

授業科目名： 開発経済学I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古沢希代子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：開発経済学入門</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Development（開発/発展）、貧困、不平等とは何か。その定義をめぐって展開された議論を理解し、状況を客観的に把握する指標を身につける。 2. SDGsにも直結する具体的な政策措置及びその基盤となる理論を習得する。 3. ジェンダーの視点を統合した分析を習得する。 			
<p>授業の概要</p> <p>開発経済学は、人びとの生活や人生に多大な影響を及ぼす貧困や格差の問題を扱い、その実態と原因を一国及びグローバルな視点で分析し、より良い経済発展の方法を探るための学問である。本講義では、貧困、不平等、経済の発展とは何か、定義し計測する方法と、発展の道筋を考える理論と政策について学ぶ。具体的な事例研究も盛り込み、援助の功罪、ガバナンス（行政機構の規律と能力）、民主主義と法の支配、ジェンダー平等、環境破壊、紛争といった課題との関連も考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：なぜ私たちは世界の貧困問題にかかわるのか～経済学者ジェフリー・サックスのメッセージ</p> <p>第2回：植民地独立と「資源の呪い」～ナイジェリアにおける低開発の構造</p> <p>第3回：貧困の定義と計測～貧困の指標と諸側面</p> <p>第4回：不平等の定義と計測～不平等の指標と諸側面</p> <p>第5回：事例研究：貧困と不平等の実態～日本における若年女性の貧困</p> <p>第6回：経済成長理論（1）古典派の4アプローチ</p> <p>第7回：経済成長理論（2）国際従属学派とネオリベラリズム</p> <p>第8回：人間開発と健康～保健医療サービスと人々の健康行動</p> <p>第9回：知的財産権と医薬品アクセス問題～HIV/エイズからCOVID-19へ</p> <p>第10回：人間開発と教育～教育政策の分析と評価</p> <p>第11回：産業政策と雇用</p> <p>第12回：人口の何が問題～人口管理から貧困撲滅とリプロダクティブヘルス&ライツへ</p>			

第13回：環境制約と環境政策～経済学からのアプローチ

第14回：紛争と経済～イスラエル占領下のパレスチナ経済

第15回：持続可能な開発とは～SDGsの三層構造とジェンダーの視点

定期試験を実施する。

テキスト 特にテキストは定めない。レジュメあるいはスライドはWebClassに掲載する。また、適宜必要な資料を配布する。

参考書・参考資料等

・Todaro, M. Smith, S (2020) Economic Development (13th edition), Pearson. M. トダロ&S. スミス (2010) 『トダロとスミスの開発経済学』国際協力出版会、『テキストブック 開発経済学』（第3版 2015）有斐閣、各年度の国連開発計画『人間開発報告書』、国連児童基金『世界子ども白書』、国連人口基金『世界人口白書』、世界銀行『世界開発報告』など。

学生に対する評価

定期試験（50%）と授業中及び授業外で課される練習問題や課題（50%）

授業科目名： 開発経済学II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古沢希代子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：開発経済学入門II</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済のグローバル化を貿易自由化と資本・労働力移動という柱で理解し、関連する具体的な政策が経済成長や貧困削減へ及ぼす影響を客観的に分析する力を獲得する。 2. 経済のグローバル化に対する国際的なガバナンス体制の現状を把握し、その多様化する課題を理解し検討する力を獲得する。 3. ジェンダーの視点を統合し、政策の帰結がマクロ経済指標に加えて、人々のウェルビーイングに及ぼす影響を分析できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>開発経済学は、人びとの生活や人生に多大な影響を及ぼす貧困や格差の問題を扱い、その実態と原因を一国及びグローバルな視点で分析し、より良い経済発展の方法を探るための学問である。本講義では、経済のグローバル化という現実を踏まえて、発展途上国の産業政策、貿易、直接投資、金融、債務、国境を越える人の移動といったマクロ経済分野を扱い、それらに関する政策及び国際的ルールや制度が経済成長と貧困削減はじめ人のウェルビーイングにもたらす効果について、ジェンダーの視点を交えて考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：SDGsと開発経済学の課題</p> <p>第2回：植民地経済からの脱却と産業発展の課題</p> <p>第3回：日本と韓国における産業発展の道</p> <p>第4回：貿易、経済成長、貧困削減</p> <p>第5回：国際貿易体制の課題—WTO、FTA、地域経済統合</p> <p>第6回：グローバル・バリューチェーンのジェンダー分析</p> <p>第7回：金融システムと経済</p> <p>第8回：累積債務問題と金融危機</p> <p>第9回：経済危機のジェンダー分析</p>			

第10回：新たな金融手法—マイクロファイナンスとフィンテック

第11回：開発課題としての国際労働力移動

第12回：国際労働力移動の女性化

第13回：ビジネスと人権—課題と国際的取り組み

第14回：新たな経済モデルの検討—脱成長論、連帯経済、フェアトレード

第15回：国際開発協力の現状と課題

定期試験

テキスト

特にテキストは定めない。レジュメあるいはスライドはWebClassに掲載する。また、適宜必要な資料を配布する。

参考書・参考資料等

長田華子・金井郁・古沢希代子編著（2023）『フェミニスト経済学—経済社会をジェンダーでとらえる』有斐閣、Todaro, M. Smith, S (2020) Economic Development (13th edition), Pearson. M. トダロ&S. スミス（2010）『トダロとスミスの開発経済学』国際協力出版会、『テキストブック 開発経済学』（第3版 2015）有斐閣、各年度の国連開発計画『人間開発報告書』、国連児童基金『世界子ども白書』、国連人口基金『世界人口白書』、世界銀行『世界開発報告』など。

学生に対する評価

定期試験（50%）と授業中及び授業外で課される練習問題や課題（50%）

授業科目名： 哲学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 榊原 哲也 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 哲学的思考の射程：哲学という学問の基本的な特徴を理解したうえで、現代のさまざまな問題について哲学的に考えることの意味、面白さ、難しさを経験し、受講者が現代における哲学的思考の射程について自ら展望を持てるようになることを目標とする。			
授業の概要 哲学上のいくつかの基本概念について概説しつつ、哲学という学問の基本的特徴を押さえたうえで、近世哲学における「主観」概念について解説する。また、19世紀後半以降の哲学の主要な系譜のうち、現象学について概説し、「他者」「言語」「身体」といった諸問題を扱いつつ、現代における哲学的思考の射程と可能性について考える。			
授業計画 第1回：哲学とはどのような学問か——哲学という学問の基本的特徴と哲学の諸部門 第2回：存在論と認識論 第3回：「主観」概念と近世的二元論（1）——デカルトの方法的懐疑 第4回：「主観」概念と近世的二元論（2）——近世的二元論の構図 第5回：「主観」概念と近世的二元論（3）——カントの超越論的哲学 第6回：近世「主観」概念のゆくえ 第7回：現代における哲学の展開：現象学——フッサール（1）：現象学の成立 第8回：現象学——フッサール（2）：超越論的現象学の方法 第9回：現象学——フッサール（3）：間主観性と生活世界 第10回：現象学——ハイデガー（1）：存在への問いと現存在の現象学 第11回：現象学——ハイデガー（2）：世界内存在と気遣い 第12回：現象学——ハイデガー（3）：存在への問いの展開 第13回：現象学——メルロ＝ポンティ 第14回：現代における哲学的思考の射程と可能性 第15回：授業内試験およびまとめ			
テキスト			

とくに用いない。必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

榊原哲也『医療ケアを問いなおす—患者をトータルにみることの現象学』（ちくま新書）（とくに第2章）

榊原哲也・本郷均『現代に生きる現象学—意味・身体・ケア』（放送大学教育振興会）

その他は授業中にそのつど指示する。

学生に対する評価

授業内試験60% 平常点（毎授業後のリアクションペーパー）40%

授業科目名： 倫理学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田 有希子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・中学校社会「哲学、倫理学、宗教学」 ・高等学校公民「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 ・倫理学の諸問題の基本構造とその背景について説明することができる。 ・授業でとりあげる倫理学の具体的諸問題について、現状とその問題の構造について説明することができる。 ・講義内容を踏まえ、自分自身の「問題意識」を明確にし、自らが立てた「問題」について根拠とともに主張を述べることができる。			
授業の概要 倫理学入門として、倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 総論（前半）では、「哲学」と「倫理学」の関係、「倫理学」と「倫理」、そして「倫理」と「道徳」の違い等、倫理学に関わる重要概念の意味規定を確認する。 各論（後半）では、現代社会における具体的な倫理的問題を受講生とともに考える。その際、グループ・ディスカッションの時間も設け、受講生がまず主体的に考え、さらに他の参加者との対話を展開し、それを通じて、自分の意見や考えを言葉で論理的に整理し、さらに深める（根拠づける）力を身に着けることを目指す。			
授業計画 第1回：イントロダクション 哲学と倫理 第2回：§ 1 倫理学の基礎 (1) 倫理学とは何かー倫理と倫理学 第3回： (2) 法と倫理 (3) 倫理学の分類 第4回： § 2 規範倫理学 (1) 義務論 功利主義 徳倫理学 第5回： (2) 「嘘をつく」ことについて考える（グループ・ディスカッション①） 第6回： § 3 自殺と安楽死 (1) 自殺と自死 第7回： (2) 自死は悪いことかー私の死ぬ権利（グループ・ディスカッション②） 第8回： (3) 安楽死問題について 第9回： § 4 コロナ問題と倫理学			

(1) 自由と制限

第10回：(2) 命の選別問題—人工呼吸器の配分について (グループ・ディスカッション③)

第11回：(3) 何が正しい選択か (グループ・ディスカッションの振り返り)

第12回：§5 功利主義から考える

(1) 功利主義とは

第13回：(2) 功利主義批判と洗練された功利主義

第14回：(3) 幸福について—「よく生きる」を考える

第15回：授業内試験およびまとめ

テキスト

とくに指定はありません。その都度、資料を配布します。

参考書・参考資料等

赤林 朗・児玉 聡 (編) 『入門・倫理学』2018年勁草書房

児玉 聡 著 『功利主義入門 はじめての倫理学』2012年筑摩書房

児玉 聡 著 『功利と直観—英米倫理思想史入門』2010年勁草書房

学生に対する評価

・授業内試験 60%

・平常点 (グループ・ディスカッションとリアクションペーパー) 40%

授業科目名：キリスト 教学入門 I	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 遠藤勝信
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>キリスト教学入門。東京女子大学の建学の精神であるキリスト教とその土台としての聖書の内容を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>東京女子大学とキリスト教の関係を学ぶことによって、本学の「建学の精神」を理解する。また、キリスト教の全体像を学び、そのキリスト教の土台である聖書を学ぶ。これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに—大学でキリスト教を学ぶ意義</p> <p>第2回：東京女子大学とキリスト教 (1)</p> <p>第3回：東京女子大学とキリスト教 (2)</p> <p>第4回：キリスト教、聖書について (総論)</p> <p>第5回：旧約聖書を学ぶ (総論)</p> <p>第6回：創造物語</p> <p>第7回：墮罪物語</p> <p>第8回：族長物語</p> <p>第9回：出エジプト</p> <p>第10回：モーセの十戒</p> <p>第11回：王制のはじまり</p> <p>第12回：王国の盛衰</p> <p>第13回：捕囚と解放</p> <p>第14回：預言者と終末思想</p> <p>第15回：総括</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『聖書』(新共同訳、日本聖書協会)</p>			

参考書・参考資料等

アリスター・E・マクグラス『総説 キリスト教:はじめての人のためのキリスト教ガイド』キリスト新聞社

アリスター・E・マクグラス『旧約新約聖書ガイド-創世記からヨハネの黙示録まで』キリスト新聞社

学生に対する評価

定期試験（40%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）、礼拝レポート（20%）

授業科目名：キリスト 教学入門 II	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 遠藤勝信 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 東京女子大学の建学の精神であるキリスト教とその土台としての聖書、及びキリスト教の縦軸（歴史）と横軸（社会・倫理・文化・芸術など）の展開を理解する。			
授業の概要 イエス・キリストの生涯と福音及び初代教会の設立と宣教活動について、またキリスト教の歴史的及び社会的展開を学ぶ。これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。			
授業計画 第1回：はじめに—前期のおさらい 第2回：旧約聖書から新約聖書へ—その1 第3回：旧約聖書から新約聖書へ—その2 第4回：イエス・キリストの生涯 第5回：イエス・キリストの誕生 第6回：イエス・キリストの時代（宗教事情） 第7回：イエス・キリストの教え—その1：「山上の説教」を中心に 第8回：イエス・キリストの教え—その2：「山上の説教」を中心に 第9回：イエス・キリストの教え—その3：「譬え話」を中心に 第10回：イエス・キリストの教え—その4：「譬え話」を中心に 第11回：イエス・キリストの受難とその意味 第12回：イエス・キリストの復活とその意味 第13回：聖霊降臨と教会の誕生 第14回：使徒による福音宣教 第15回：総括、その後の展開 定期試験			
テキスト 『聖書』（新共同訳、日本聖書協会）			

参考書・参考資料等

アリストター・マクグラス『総説 キリスト教—はじめての人のためのキリスト教ガイド』キリスト新聞社

アリストター・E・マクグラス『旧約新約聖書ガイド—創世記からヨハネの黙示録まで』キリスト新聞社

学生に対する評価

定期試験（40％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40％）、礼拝レポート（20％）

授業科目名： 社会・地理歴史科 教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹内 久頭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校社会、高等学校地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会科・地理歴史科の歴史の変遷(学習指導要領の変遷)を理解する。 ・学習指導要領の構成を学び、指導要領の「目標」「内容」を理解する。 ・検定教科書をはじめとする教材研究の方法を身につける。 ・社会科・地理歴史科の授業設計に ICT 機器を活用する方法を身につける。 ・単元の指導過程や授業構成(導入・展開・まとめ)と学習評価の方法を習得する。 			
授業の概要			
<p>社会科・地理歴史科の歴史の変遷を学習指導要領に即して学習するとともに、指導要領の「目標」「内容」を読解し理解する。検定教科書を中心に、資料集や地図帳などの副読本を活用して教材研究の方法を学ぶ。すぐれた授業実践記録を読み、それぞれの意義と課題を分析・検討する。ICT 機器を活用した授業の理論と実践例を学ぶ。単元の指導過程や授業構成(導入・展開・まとめ)と学習評価について各自作成し、授業で発表して討論・検討する。</p>			
授業計画			
<p>第 1 回：学習指導要領における社会科の歴史の変遷、社会科・地歴科の「目標」</p> <p>第 2 回：学習指導要領における社会科・地歴科の「内容」</p> <p>第 3 回：授業の構成－学習指導案における目標・内容・方法・評価について</p> <p>第 4 回：教材研究の方法 1－複数の検定教科書記述の比較検討</p> <p>第 5 回：教材研究の方法 2－学問的成果と検定教科書記述の比較検討</p> <p>第 6 回：地理教育の理論と授業実践例の検討</p> <p>第 7 回：歴史教育の理論と授業実践例の検討</p> <p>第 8 回：地歴科の新傾向－地理総合・歴史総合と地理探究・世界史探究・日本史探究</p> <p>第 9 回：社会科・地歴科における「主体的・対話的で深い学び」</p> <p>第 10 回：社会科・地歴科における ICT 機器の活用</p> <p>第 11 回：授業設計(指導過程・授業構成・学習評価)の発表 1－世界地理領域</p> <p>第 12 回：授業設計(指導過程・授業構成・学習評価)の発表 2－日本地理領域</p> <p>第 13 回：授業設計(指導過程・授業構成・学習評価)の発表 3－世界史領域</p> <p>第 14 回：授業設計(指導過程・授業構成・学習評価)の発表 4－日本史領域</p> <p>第 15 回：社会科・地歴科における「教科等横断的な視点」</p>			

定期試験を行わない

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）

『中学校学習指導要領解説-社会編』（平成 29 年 6 月）

『高等学校学習指導要領解説-地理歴史編』（平成 30 年 7 月）

検定教科書

学生に対する評価

授業時間中の提出物（20%）、授業時間内の発表（20%）、レポート（40%）、地理・歴史に関する基礎知識テスト（20%）

授業科目名： 社会・地理歴史科 教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 牛田 守彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示されている社会科（地理・歴史）・地理歴史科の目標を達成できるように、授業の内容と方法を適切に組み立てることができる。 ・ 授業を効果的に展開できるような教材を適切に選び開発することができる。 ・ 学習指導案を正しく作成することができる。 ・ 実際に教壇に立っていることを想定した模擬授業を行うことができる。 ・ 他の授業者の授業を観察し、適切な批評と学びあいに基づくアクティブ・ラーニングをおこなうことができる。 			
授業の概要			
<p>中学社会科（地理的分野・歴史的分野）と高校地理歴史科の授業を実践するために必要な技術・視点を身につけ、すべての受講者が、社会科・地理歴史科の授業を実際につくることができるようになることを目標とする。実際の教育現場での事例の紹介、教科書や具体的実物の分析と教材化の試み、学習指導案の作成、受講者全員による模擬授業の実施などを実践的に行う。模擬授業に際しては、授業者の授業に対する討論やリアクションペーパーの作成を全員で行うアクティブ・ラーニングを実施し、授業者はそれらを踏まえて振り返りレポートを作成することとする。</p>			
授業計画			
第1回：授業設計と学習指導案作成の方法			
第2回：教材研究の方法			
第3回：指導言の作り方			
第4回：ICT 機器の活用方法			
第5回：模擬授業のテーマ（単元）と指導目標の設定			
第6回：学習指導案の作成			
第7回：学習指導案の実例検討			
第8回：模擬授業1－社会科地理的分野（世界）			
第9回：模擬授業2－社会科地理的分野（日本）			
第10回：模擬授業3－社会科歴史的分野（前近代）			

第11回：模擬授業4－社会科歴史的分野（近現代） 第12回：模擬授業5－地歴科地理総合・地理探究 第13回：模擬授業6－地歴科歴史総合 第14回：模擬授業7－地歴科日本史探究・世界史探究 第15回：模擬授業の振り返り 定期試験を行わない
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示） 『中学校学習指導要領解説-社会編』（平成29年6月） 『高等学校学習指導要領解説-地理歴史編』（平成30年7月） 検定教科書
学生に対する評価 学習指導案の作成（25%）、模擬授業（25%）、振り返りレポート（25%）、平常点（25%）

授業科目名： 社会・公民科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹内 久頭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校社会、高等学校公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会科・公民科の歴史の変遷(学習指導要領の変遷)を理解する。 ・学習指導要領の構成を学び、指導要領の「目標」「内容」を理解する。 ・検定教科書をはじめとする教材研究の方法を身につける。 ・社会科・公民科の授業設計にICT機器を活用する方法を身につける。 ・単元の指導過程や授業構成(導入・展開・まとめ)と学習評価の方法を習得する。 			
授業の概要			
<p>社会科・公民科の歴史の変遷を学習指導要領に即して学習するとともに、指導要領の「目標」「内容」を読解し理解する。検定教科書を中心に、資料集などの副読本を活用して教材研究の方法を学ぶ。すぐれた授業実践記録を読み、それぞれの意義と課題を分析・検討する。ICT機器を活用した授業の理論と実践例を学ぶ。単元の指導過程や授業構成(導入・展開・まとめ)と学習評価について各自作成し、授業で発表して討論・検討する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：学習指導要領における社会科の歴史の変遷、社会科・公民科の「目標」</p> <p>第2回：学習指導要領における社会科・公民科の「内容」</p> <p>第3回：授業の構成－学習指導案における目標・内容・方法・評価について</p> <p>第4回：教材研究の方法1－複数の検定教科書記述の比較検討</p> <p>第5回：教材研究の方法2－学問的成果と検定教科書記述の比較検討</p> <p>第6回：公民教育(憲法・人権)の理論と授業実践例の検討</p> <p>第7回：公民教育(経済・国際)の理論と授業実践例の検討</p> <p>第8回：公民科の新傾向－「公共」、市民性教育(シティズンシップ教育)、ESDについて</p> <p>第9回：社会科・公民科における「主体的・対話的で深い学び」</p> <p>第10回：社会科・公民科におけるICT機器の活用</p> <p>第11回：授業設計(指導過程・授業構成・学習評価)の発表1－憲法・人権</p> <p>第12回：授業設計(指導過程・授業構成・学習評価)の発表2－経済</p> <p>第13回：授業設計(指導過程・授業構成・学習評価)の発表3－国際</p> <p>第14回：授業設計(指導過程・授業構成・学習評価)の発表4－倫理・時事</p> <p>第15回：社会科・公民科における「教科等横断的な視点」</p>			

定期試験は行わない

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）

『中学校学習指導要領解説-社会編』（平成 29 年 6 月）

『高等学校学習指導要領解説-公民編』（平成 30 年 7 月）

検定教科書

学生に対する評価

授業時間中の提出物（20%）、授業時間内の発表（20%）、レポート（40%）、地理・歴史に関する基礎知識テスト（20%）

授業科目名： 社会・公民科教育法 II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小島 健太郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている社会科（公民）・公民科の目標を達成できるように、授業の内容と方法を適切に組み立てることができる。 ・授業を効果的に展開できるような教材を適切に選び開発することができる。 ・学習指導案を正しく作成することができる。 ・実際に教壇に立っていることを想定した模擬授業を行うことができる。 ・他の授業者の授業を観察し、適切な批評と学びあいに基づくアクティブ・ラーニングをおこなうことができる。 			
授業の概要			
<p>中学社会科（公民的分野）と高校公民科の授業を実践するために必要な技術・視点を身につけ、すべての受講者が、社会科・公民科の授業を実際につくることができるようになることを目標とする。実際の教育現場での事例の紹介、教科書や具体的実物の分析と教材化の試み、学習指導案の作成、受講者全員による模擬授業の実施などを実践的に行う。模擬授業に際しては、授業者の授業に対する討論やリアクションペーパーの作成を全員で行うアクティブ・ラーニングを実施し、授業者はそれらを踏まえて振り返りレポートを作成することとする。</p>			
授業計画			
第1回：授業設計と学習指導案作成の方法			
第2回：教材研究の方法			
第3回：指導言の作り方			
第4回：ICT 機器の活用方法			
第5回：模擬授業のテーマ（単元）と指導目標の設定			
第6回：学習指導案の作成			
第7回：学習指導案の実例検討			
第8回：模擬授業1－社会科公民的分野（憲法）			
第9回：模擬授業2－社会科公民的分野（人権）			
第10回：模擬授業3－社会科公民的分野（経済）			
第11回：模擬授業4－社会科公民的分野（国際）			
第12回：模擬授業5－公民科公共			

第13回：模擬授業6－公民科政治経済（憲法・人権） 第14回：模擬授業7－公民科政治経済（経済・国際）・公民科倫理 第15回：模擬授業の振り返り 定期試験を行わない
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示） 『中学校学習指導要領解説-社会編』（平成29年6月） 『高等学校学習指導要領解説-公民編』（平成30年7月） 検定教科書
学生に対する評価 学習指導案の作成（25％）、模擬授業（25％）、振り返りレポート（25％）、平常点（25％）

授業科目名： 英語教育演習 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 橋本ナターシャ
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 技能を教えるさまざまなテクニックを実践練習し身につける。 ・ 活動とその理論的根拠を記載した指導技術の記録を保管し客観的に分析できるようになる。 ・ 模擬授業で four strand アプローチを適用できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本演習は、外国語としての英語教師を目指す学生を対象とする。学生は、4 技能（聞く、話す、読む、書く）に加え、発音、語彙、文法、談話といった言語使用についても、様々な教授法の練習を行う。</p>			

授業計画

- 第1回：オリエンテーション(コース内容の説明、クラスポリシーの説明、Q&A)
 第2回：Four strands in ELT(英語教育の4つの要素)：meaning-focused インプット、meaning-focused アウトプット、言語自体に焦点を当てた学習、流暢性の向上
 第3回：教員の仕事
 第4回：リスニング&スピーキングの教え方
 第5回：リスニング&スピーキングの教え方
 第6回：コミュニカティブ実践: リスニング&スピーキングの教え方
 第7回：リーディングの教え方
 第8回：ライティングの教え方
 第9回：発音&スペリングの教え方
 第10回：語彙習得、語彙の教え方
 第11回：文法の教え方
 第12回：模擬授業
 第13回：模擬授業
 第14回：試験
 第15回：まとめ・課題提出

備考：履修者数や授業の進み具合により、スケジュールや取り扱う内容に若干変容が生じる場合があります。

受講を希望する学生は、登録前の第1週目から出席しなければなりません。

テキスト

Nation, P. (2013). What should every EFL teacher know? Compass Publishing. ISBN-10: 1599662663

参考書・参考資料等

- Harmer, J. (2022). Communicative activities. Cambridge.
 Nunan, P. (2015). Teaching English to speakers of other languages. Routledge.
 Scrivener, J. (2011). Learning teaching: The essential guide to English language teaching. MacMillan.
 Thornbury, S. (2017). 30 language teaching methods. Cambridge.
 Ur, P. (2012). A course in English language teaching. Cambridge.
 門田修平 (2023). 社会脳インタラクションを活かした英語の学習・教育：やり取りの力を伸ばす. 大修館書店.
 白井恭弘 (2012). 英語教師のための第二言語習得論入門. 大修館書店.
 山岡大基 & 田頭憲二 (2023). 英語授業デザインマニュアル. 大修館書店

学生に対する評価

授業内試験 30%、授業の参加状況 30%、レポート 20%、模擬授業 20%

授業科目名： 英語教育演習 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： Klassen, Kimberly
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業の目的、アクティビティとタイミング、対話パターンを含めて授業を計画できるようになる。</p> <p>様々な言語スキル (読解力、書く能力等) を評価するためのテクニックを分析できるようになる。</p> <p>レベルが異なるクラスや大規模なクラス等、教室での課題に対処するためのテクニックを習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本演習は、外国語としての英語教師を目指す学生を対象とする。学生は、授業や科目の計画、モチベーションの低い生徒への対応、大人数のクラスでの授業など、クラス運営の問題に重点を置いて議論する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション コース、目的、参加者の紹介</p> <p>第2回：Nation の 4 つのストランドの概要と教師の役割</p> <p>第3回：外国語の授業時の教室における教師と生徒による L1 と L2 の使用</p> <p>第4回：授業の計画方法の概要</p> <p>第5回：語学科目の企画</p> <p>第6回：シラバスの設計と評価</p> <p>第7回：指導の際の問題への対処 I</p> <p>第8回：指導の際の問題への対処 II</p> <p>第9回：教室の管理</p> <p>第10回：学習者をテストする方法 I</p> <p>第11回：学習者をテストする方法 II</p> <p>第12回：特定の目的に合わせた英語教育</p> <p>第13回：教師のための専門能力開発</p> <p>第14回：ポスター発表</p> <p>第15回：復習とまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>Nation, P. (2013). What should every EFL teacher know? Compass Publishing. ISBN-10: 1599662663</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内試験 30%、授業の予習と参加状況 20%、リアクションペーパー 30%、ポスター発表 20%</p>			

授業科目名：トランスレーション・スタディーズ A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：河原 清志
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 翻訳学の理論と翻訳実践の基礎を知る。 ・ 翻訳学の方法論を用いて、異文化摩擦の諸相を分析し、「翻訳」をめぐる問題をより深く考察することができるようになる。 ・ 日英語間の翻訳において、翻訳移入により、その題材が移入先の言語文化に与える影響や生じる摩擦の諸相について知る。 			
<p>授業の概要</p> <p>トランスレーション・スタディーズは翻訳学や翻訳研究と訳されることもある、比較的新しい学際的学問領域である。様々なアプローチが可能であり、扱う範囲にも非常に幅広い。その中から、本講義では、翻訳学入門の基礎的段階として、広い意味での異文化交流・異言語間コミュニケーションを考え理解するうえで文字として表記された「翻訳」が果たす役割に着目して考察する手がかりを得ることを目標とする。様々な事例をとりあげ、原文と訳文を細かく対照し分析・研究することにより、日本語と英語、日本語文化と英語文化の摩擦の諸相を明らかにし、両言語および両文化の異同を考察する。合わせて、翻訳移入の結果、ある題材が移入先の言語文化に与える影響についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション（授業概要と「翻訳学」の主な研究方法と基本用語）</p> <p>第2回：「翻訳学」の研究方法（1） 翻訳史的アプローチ</p> <p>第3回：「翻訳学」の研究方法（2） 「翻訳語」</p> <p>第4回：「翻訳学」の研究方法（3） 翻訳学における「等価」と「ズレ」、翻訳不可能性</p> <p>第5回：「翻訳学」の研究方法（4） 英和対照研究への導入</p> <p>第6回：原文と訳文の英和・日英対照（1） パラグラフ</p> <p>第7回：原文と訳文の英和・日英対照（2） 固有の事物・風物・習俗・制度</p> <p>第8回：原文と訳文の英和・日英対照（3） 固有の表現・表記・押韻（オノマトペ）</p> <p>第9回：原文と訳文の英和・日英対照（4） 主語・目的語の省路、（心情表現の）具体性と抽象性</p> <p>第10回：原文と訳文の英和・日英対照（5） 時制表現と感情移入</p> <p>第11回：特定の作品の原作と翻訳の比較対照（1） 比較方法への導入</p> <p>第12回：特定の作品の原作と翻訳の比較対照（2） 英和・日英対照表の作成</p>			

<p>第13回：特定の作品の原作と翻訳の比較対照(3) 英和対照表の分類・分析</p> <p>第14回：特定の作品の原作と翻訳の比較対照(4) 分析レポートの書き方と仕上げ</p> <p>第15回：振り返りとまとめ — 「翻訳」から見える言語や文化の多様性</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>北條文緒(2004)『翻訳と異文化』みすず書房</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>鳥飼玖美子(編著)(2013)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房</p> <p>河原清志(2017)『翻訳等価再考—翻訳の言語・社会・思想』晃洋書房</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加度(30%)、提出課題(30%)、小テストおよび期末レポート(40%)</p>

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江藤英樹
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基礎概念と憲法学の基本的な考え方を養う。 ・法的思考の基礎を身につける。 			
授業の概要			
<p>この授業では、国の統治機構、基本的人権を中心に、代表的な判例を紹介しながら論点を整理し考察していく。日本国憲法制定の歴史、基本的人権の歴史、プライバシーの権利、法の下での平等、自由権的基本権、社会権的基本権、統治機構としての立法権、行政権、司法権などを取上げて日本国憲法の基本原理を学び、憲法改正問題についても触れる。</p>			
授業計画			
授業計画			
第1回：憲法とは何か？			
憲法に基づいて政治を行う立憲主義という考え方について説明します。			
第2回：基本的人権総論			
基本的人権とはどのような性質を持つものかについて説明します。			
第3回：権力分立制度（統治機構）総論			
国会、内閣、裁判所等の権力分立制度について説明します。			
第4回：地方自治制度			
地方自治制度および住民の権利について説明します。			
第5回：法の下での平等			
憲法14条の保障する平等原則について説明します。			
第6回：思想・良心の自由および信教の自由および信教の自由			
憲法19条の保障する思想良心の自由と憲法20条の保障する信教の自由と政教分離制度について説明します。			
第7回：信教の自由			
第8回：表現の自由			
憲法21条の保障する表現の自由について説明します。			
第9回：経済的自由			
憲法22条と29条が保障する経済的自由（職業選択の自由および財産権）について			

説明します。

第10回：人身の自由および小テスト

憲法31条の保障する適正手続について説明します。

また、中間試験として小テスト（範囲：第1～7回）を実施します。

第11回：社会権

憲法25条の保障する生存権、憲法26条の保障する教育を受ける権利、憲法27・28条の保障する労働基本権について説明します。

第12回：幸福追求権

プライバシー権や環境権等の「新しい人権」について説明します。

第13回：平和主義

憲法前文と9条が規定する平和主義について説明します。

第14回：憲法改正

近年の憲法改正に関する諸議論について説明します。

第15回：授業のまとめ

授業のまとめを行います。

定期試験

テキスト

君塚正臣編『高校から大学への憲法（第2版）』（法律文化社、2016年）

参考書・参考資料等

吉田仁美・渡辺暁彦編『憲法判例クロニクル』（ナカニシヤ出版、2016年）

大沢秀介・大林啓吾編『確認憲法用語』（成文堂、2014年）

学生に対する評価

小テスト30点、最終テスト70点の合計100点満点で成績評価を行う。

授業科目名： 女性のウェルネス・身体運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 平工志穂
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の健康を支える基礎的な知識を習得する。 2. 理論と実践から身体運動についての理解を深め、健康における運動の重要性を学ぶ。 3. 心身のコンディションを自己管理する重要性と基礎的手法を学ぶ。 			
<p>授業の概要</p> <p>身体的にも精神的にも社会的にも良好で生き生きとした状態を積極的に得る為に、女性のライフステージからみた健康と身体運動についての基礎的な知識を学ぶ。そして心身のコンディションを自己管理する重要性と基礎的手法を学び、各種トレーニングを通して自己の身体を認識し、将来起こり得る健康上の様々な状況に適宜対応できる知識と身体能力を養う。また、様々なスポーツによるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 生活習慣</p> <p>第2回：体力テスト（自分のからだを知る）</p> <p>第3回：5分間走 体力テスト総括 運動の重要性と運動習慣</p> <p>第4回：アルコールとの付き合い方</p> <p>第5回：トレーニングルーム説明 コンディショニング リンパマッサージ</p> <p>第6回：静的ストレッチ バレーボール（チームづくり 基礎確認）</p> <p>第7回：動的ストレッチ バレーボール シットイングバレー</p> <p>第8回：バレーボール（リーグ戦）</p> <p>第9回：レクレーションエクササイズと生理心理反応（歩数、心拍数）</p> <p>第10回：筋力トレーニング バドミントン（スポーツ文化の理解、技術の習得、シングルス）</p> <p>第11回：スロートレーニング バドミントン（技術の習得、ダブルス）</p> <p>第12回：スロートレーニング バドミントン（ダブルス・シングルス）</p> <p>第13回：心身コンディショニング ヨガ</p> <p>第14回：キンボール（ニュースポーツ）</p> <p>第15回：「運動がからだやこころに与える影響」レポート発表/まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『女性のウェルネス・身体運動 ハンドブック』</p>			

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

平常点(60%) 小レポート(30%)、習熟度チェック(10%)。

平常点は出席状況、実習における技能力、コミュニケーション力などを総合的に評価する。

授業科目名： スポーツA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森井大治
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テニスの基本的な技術（サービス、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアハンドボレー、バックハンドボレー、ポーチ等）を個々のレベルに応じて習得し、ダブルスゲームの方法を理解する。また、中級レベルの学生に対しては、基礎だけでなく、応用的な技術も合わせて習得してもらう</p>			
<p>授業の概要</p> <p>テニスは、世界中の人々に愛好されている老若男女問わず、誰でも行える生涯スポーツとして非常に適したスポーツです。本授業では、この生涯スポーツに適しているテニスの基礎技術の向上とその応用を学び、同時にテニス文化や運動と安全について考え、最終的にゲームを中心にテニスの楽しさを実感できるようにすることが目標です。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：テニスの基礎 ラケットティング</p> <p>第3回：グラウンドストロークの基本 フォアハンドストロークの打ち方</p> <p>第4回：グラウンドストロークの基本 バックハンドストロークの打ち方</p> <p>第5回：グラウンドストロークの基本 グラウンドストロークにおけるフットワークの基本確認</p> <p>第6回：ボレーの基本 グラウンドストロークとボレーの技術的相違点の確認</p> <p>第7回：ボレーの基本 フォアハンドおよびバックハンドボレーの打ち方</p> <p>第8回：ボレーの基本 ポーチの打ち方</p> <p>第9回：サービスの基本 フラットサービスの打ち方</p> <p>第10回：サービスの基本 サービスでの回転のかけ方</p> <p>第11回：ゲームの基本 サービスリターン</p> <p>第12回：ダブルスの基本パターン</p> <p>第13回：ダブルスゲーム、テスト</p> <p>第14回：ダブルスゲーム</p> <p>第15回：まとめ試験及びまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要なときにプリントとして配布</p>			

参考書・参考資料等

蝶間林利男著：「科学の目を見たテニスレッスン」1，2（ベースボールマガジン社）

森井大治著：差がつく練習法 テニス 緩急自在マルチ練習ドリル

学生に対する評価

授業内試験：30% 平常点：60% その他：10% 受講態度等

授業科目名： スポーツB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 芝スミ子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、バドミントンの基礎技術を習得すること。 2、バドミントンのルールを理解し、審判ができること。 3、バドミントンのゲーム（シングルス・ダブルス）ができること。 4、授業を通して、体力の維持や増強すること。 5、他学年とのコミュニケーションをはかれること。 			
<p>授業の概要</p> <p>本実習では、スピード感のある激しいバドミントンの基礎を学び、ゲーム(シングルス、ダブルス)を通して面白さと楽しさ、スピード感を味わい生涯スポーツにつなげる。また、体力の維持や増強につとめ自己管理能力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション...更衣あり コロナ対策の心得と授業について。バドミントンコートの準備の仕方について。</p> <p>第2回：歴史を学ぶ、ラケット選び、ストロークの説明（グリップの握り方、サービス、フォアハンド、バックハンドの技術を身につける）</p> <p>第3回：フライト練習（ハイクリアー、ネットプレイの技術を身につける）</p> <p>第4回：フライト練習（ドロップ、カット、ロブの技術を身につける）</p> <p>第5回：フライト練習（ドライブ、プッシュ、レシーブの技術を身につける）</p> <p>第6回：フライト練習（スマッシュ、レシーブの技術を身につける）</p> <p>第7回：フットワーク、トレーニング方法を学び、実践する。</p> <p>第8回：ルール解説、審判方法を学び実践する。</p> <p>第9回：ゲーム（シングルスのゲームをする、ビデオ鑑賞）</p> <p>第10回：ゲーム（シングルスのゲームを対戦相手を変えて行う）</p> <p>第11回：ゲーム（シングルスのゲームを対戦相手を変えて行う）</p> <p>第12回：ゲーム（ダブルスのゲームをする）</p> <p>第13回：ゲーム（ダブルスのゲームを対戦相手を変えて行う）</p> <p>第14回：ゲーム（ダブルスのゲームを対戦相手を変えて行う）</p> <p>第15回：まとめ試験及びまとめ</p>			

テキスト
内容に応じて資料を配布する場合もある。
参考書・参考資料等
「ゲー・ジャーミンのレディース・バドミントン」ゲー・ジャーミン著ベースボールマガジン社「ゲー・ジャーミンのステップバドミントン基礎編（ビデオ）」
学生に対する評価
期末レポート10% 平常点70% 技術修得20%

授業科目名： スポーツC	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 戸枝美咲
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 クライミングに関する教養を深めながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養う。			
授業の概要 2020+1東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目されているスポーツクライミング。中でも「ボルダリング」は手軽に誰でも挑戦可能で、力がなくても、運動経験がなくても、マイペースに楽しむことができる。本授業では、クライミングの中のボルダリング種目を中心に授業を展開し、自分の身体の機能や動き等を学ぶ。その楽しさを追及するとともに、適切な運動習慣を獲得し、健康増進、体力づくりについての基礎知識と方法の習得を目的とする。個人の運動スキルの向上だけではなく、グループワークを通してコミュニケーション能力の向上をねらいとする。			
授業計画 第1回：クライミングの概要（オリエンテーション） 第2回：クライミングの安全対策 第3回：クライミングに必要な体力を知る 第4回：ボルダリングのルール、グレードについて理解する（オンデマンド） 第5回：基礎①（フットワーク） 第6回：基礎②（ホールディング） 第7回：ルートを読む①（オブザベーションの重要性） 第8回：ルートを読む②（オブザベーションの重要性） 第9回：グループワーク①（ルートを作ってみる） 第10回：グループワーク②（ルートを作ってみる） 第11回：理解度・達成度チェック 第12回：グループワーク③（クライミングでゲームを楽しむ1） 第13回：グループワーク④（クライミングでゲームを楽しむ2） 第14回：自分の身体の変化を知る（体力テスト） 第15回：授業の振り返り・まとめ			

テキスト

特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

参考書・参考資料等

特定の参考書は使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

学生に対する評価

平常点(60%) 小レポート(30%)、習熟度チェック(10%)。

平常点は出席状況、実習における技能力、コミュニケーション力などを総合的に評価する。

授業科目名： スポーツD	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 田中幸夫
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯スポーツ（ゴルフ・ニュースポーツ・障害者スポーツ等）を実践していくための基本技術を習得する。 ・ 楽しむための素養を身につけることができる。本授業「スポーツD（生涯スポーツとしてのゴルフ入門）」は、ゴルフの初心者から中級者を対象に、ゴルフの基本スイング修得とグラウンドでの打撃練習によるコントロール・ショットの修得を目指して毎週の授業を展開する。 			
<p>授業の概要</p> <p>ゴルフは止まったボールに命を（エネルギー）吹き込み、ホールに入れるスポーツです。年齢や性別に関係なく行うことができ、健康の維持・増進に有効なだけでなく、趣味や生きがいとして楽しめるなど多面的な価値をもったスポーツです。ゴルフに関心を持つ初心・初級者を対象に、基本スイングとコントロールショットを習得するため、クラブの握りかた、構え、ショット練習を行います。また簡易ゲームと講義によって基本的なプレー方法、ルールやエチケット、用具の特性などについても解説します。対人競技や集団スポーツがあまり得意でない方、将来自然のなかでゴルフを楽しみたい方、経験者もたまに出るナイスショットを楽しみませんか。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：構え（アドレス）、グリップ、スウィング 事故防止の配慮</p> <p>第3回：基礎スイング ショット1アイアンのスイング 素振り</p> <p>第4回：「オンデマンド授業」ゴルフの歴史と現代 用具について 基本的なルールの説明</p> <p>第5回：基礎スイング ショット2 ハーフショット 基本的なエチケットの説明</p> <p>第6回：基礎スイング ショット3 フルショット 番手による違いの理解</p> <p>第7回：基礎スイング コントロールショット アプローチ 30yを打つ 方向と振り幅の習得</p> <p>第8回：ドライバー 飛ばすための練習</p> <p>第9回：パター 方向性と強さの習得</p> <p>第10回：ターゲットバードゴルフ1 ゲーム方法の理解</p> <p>第11回：ターゲットバードゴルフ2 スコアをつけてゲーム</p> <p>第12回：チームでの総合練習1 アイアンショット アプローチ パター</p>			

第13回：チームでの総合練習2 チームでアイアンショット アプローチ パター
 第14回：チームでの総合練習3 チームでアイアンショット アプローチ パター
 第15回：まとめ試験及びまとめ

テキスト

使用しない。適時、プリント等を配布する

参考書・参考資料等

1. ゴルフを始める一完全上達入門ガイド、スチーブン・ルーセンバーグ著、太田恭一訳 廣
 済堂出版 2. 図解雑学 ゴルフの科学 岩上真人監修 小川邦康監修協力、ナツメ社

学生に対する評価

平常点 50% 平常点は参加態度（積極性、協調性、服装）を含む50%とする。

習熟度（努力度）30% ゴルフのルールやエチケットの理解度 10%

他の人への配慮、コミュニケーション力 10%

授業科目名： フィジカルエクササイズA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 杉本亮子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ピラティスにより姿勢やからだの動き方を学び、呼吸法でからだの力の抜き方、引き締め方を知り、ピラティスマットエクササイズとヨガのアサナの実践により、週1回の授業だけでも、立つ、歩くなどの日常動作においても「気をつける ポイント」を応用することができるようになり、自分のからだのコンディショニングができるようになり、姿勢を改善し、痛みの出にくいからだになり、心身の リラックスを得る術を獲得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日常生活の習慣的なからだの動かし方によって少しずつ変わってきた姿勢のアンバランスや、それが原因となって感じる様々なからだの不調を、ピラティスマットエクササイズとヨガの独特な呼吸法と、呼吸に合わせて動くトレーニング、ストレッチング、リラクゼーションを通して、自分のからだのコンディションに気づき、整えていくことを目的とする。ピラティスマットエクササイズもヨガも、激しい運動ではないが、からだ動くことを丁寧に感じていくことにより、からだの内側から暖かくなり、自分で整える能力の向上することが期待できる。</p> <p>代表的な健康法として知られているインド発祥のヨガは、特有のポーズと呼吸法で身体全体の免疫力の向上、ストレス緩和効果など、健康の維持や増進に役立つ効果がある。また、ピラティスはリハビリテーション・プログラムとして開発された経緯を持っているため様々な年代における健康増進や筋力強化に効果がある。ここでは、ヨガやピラティスについての正しい基本的な知識や方法・効果について学び、実習を通してその技法を習得し、生涯の健康を支える自己管理能力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ピラティスとヨガの概要、呼吸法実践、からだチェック</p> <p>第2回：ヨガベーシック1：力を抜くことについて:前屈の可動域を広げよう</p> <p>第3回：ヨガベーシック2：姿勢:からだをそろえる&ひねる</p> <p>第4回：ヨガベーシック3：肩甲骨と上肢:肩こり、首こり対策（オンデマンド授業となります。）</p> <p>第5回：ヨガベーシック4：肩甲骨と体幹:からだを反らせる</p> <p>第6回：ヨガベーシック5：腹式呼吸と足の踏ん張り</p> <p>第7回：ピラティスの呼吸&ヨガ1:2種類のお腹の引き込みと姿勢</p>			

第8回：ピラティスベーシック&ヨガ2:お腹の引き込みと下肢の動き
第9回：ピラティス&ヨガ3:コアトレーニング（インプリンティング）
第10回：ピラティス&ヨガ1:コアトレーニング（インプリンティング）
第11回：ピラティス&ヨガ2:コアトレーニング（ニュートラル）
第12回：ピラティス&ヨガ3:コアトレーニング（ニュートラル）
第13回：ピラティス&ヨガ4:コアトレーニング（ニュートラル）
第14回：ピラティス on ボール:コアトレーニングアドバンス
第15回：セルフケアエクササイズの実践についてのまとめ

テキスト

印刷物配布

参考書・参考資料等

授業内で提示

学生に対する評価

平常点(60%) 授業ノートでの到達度の評価 (40%)

授業科目名： フィジカルエクササイズB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： シン イエンリン 担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>数千年の歴史を持つ伝統的な中国の養生思想、養生法、身体技法、文化などから養生学を学ぶ、現代に生きるこれからの身体観、健康観の基礎を築きあげる。心を動かし、そして、身体を動かす。動くことを外から見える身体の運動だけでなく、心の内面の充実、ゆっくり心と対話しながら、身体の内面を磨く中国の伝統的な身体技法・健康法・スポーツ種目を教材としてとりあげる。そうした教材を通して、伝統的な中国の身体づくり、積極的に健康づくりの理論を学び、方法を見出し、運動に親しみ、楽しむことをできる力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>太極拳運動は人間の気魄をゆったりと滑らかな全身の円運動で表現し、外なる大自然と内なる人間の自然を一致させる心、息、動の体術である。動くことを外から見える身体の運動だけでなく、心を落ち着き、意識を集中し、細く長く腹式深呼吸に合わせながら身体全身の関節、筋肉を平均的にゆっくり動かし、調心、調息の動きにより自律神経のバランスを調節され、心の内面も充実に健康的な身体を作り上げる。</p> <p>本授業では伝統的中國養生法、身体技法をとりあげ、現代に生かす身体観、健康観の基礎を築き、身体技法を身につけることを目標とする。心を動かし、そして、身体を動かす。太極拳、練功十八法等を通して、動くことを外から見える身体の運動だけでなく、心の内面の充実、ゆっくり、心と対話しながら、身体の内面を磨くために伝統的身体技法を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(内容紹介、デモンストレーション、) 目の保健体操を紹介する</p> <p>第2回：太極拳の心、太極拳の基本功(手と足の基本形、身体の基本姿勢)を学ぶ。(中国養生思想、陰陽論、) 目の保健体操、練功18法を練習する(全身の筋肉、関節を調節する気功体操)</p> <p>第3回：十式太極拳の基本功身体の基本姿勢などを復習しながら1番動作を学ぶ。目の保健体操、練功18法を練習する(全身の筋肉、関節を調節する気功体操)</p> <p>第4回：(オンデマンドで行う)太極拳の基本原則(調息、調身、調心) 十式太極拳1-2動作を復習しながら新しい動作を学ぶ目の保健体操、練功18法を練習する(全身の筋肉、関節を調節する気功体操)</p> <p>第5回：十式太極拳1-3動作を復習しながら新しい動作を学ぶ(音楽と合わせる) 目の保健体操、練功18法を練習する(全身の筋肉、関節を調節する気功体操)</p>			

<p>第6回：十式太極拳1－4動作を復習しながら新しい動作を学ぶ（音楽と合わせる）目の保健体操、練功18法を練習する（全身の筋肉、関節を調節する気功体操）</p> <p>第7回：十式太極拳1－5動作を復習しながら新しい動作を学ぶ（音楽と合わせる）目の保健体操、練功18法を練習する（全身の筋肉、関節を調節する気功体操）</p> <p>第8回：十式太極拳1－6動作を復習しながら新しい動作を学ぶ（音楽と合わせる）目の保健体操、練功18法を練習する（全身の筋肉、関節を調節する気功体操）</p> <p>第9回：十式太極拳1－7動作を復習しながら新しい動作を学ぶ（音楽と合わせる）目の保健体操、練功18法を練習する（全身の筋肉、関節を調節する気功体操）</p> <p>第10回：十式太極拳1－8動作を復習しながら新しい動作を学ぶ（音楽と合わせる）目の保健体操、練功18法を練習する（全身の筋肉、関節を調節する気功体操）</p> <p>第11回：十式太極拳1－10動作を復習しながら新しい動作を学ぶ（音楽と合わせる）目の保健体操、練功18法を練習する（全身の筋肉、関節を調節する気功体操）</p> <p>第12回：十式太極拳全部の動作を音楽と合わせながら練習をする。目の保健体操、練功18法を練習する（全身の筋肉、関節を調節する気功体操）</p> <p>第13回：実技テスト。（練習動作を撮影することもある）目の保健体操、練功18法を練習する（全身の筋肉、関節を調節する気功体操）</p> <p>第14回：視聴覚室などで、（DVD画像で）動作を確認しながら、まとめ説明する。</p> <p>第15回：まとめ試験及びまとめ</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じてプリント配布（健康・運動科学の理論と実践）市村出版</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>大学体育養生学研究会編（からだの原点）市村出版2003</p> <p>日本養生学会編（健康なからだの基礎）市村出版 2006</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内試験20% 平常点80%</p>

授業科目名： フィジカルエクササイズC	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高橋将
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人の関心や自分の状況に合った身体活動・エクササイズ・トレーニングメニューの作成ができるようになること。 2. 基本的なトレーニング・コンディショニング理論を理解すること。 3. 運動が身体に与える影響について理解すること。 			
<p>授業の概要</p> <p>様々な運動（ウォーキング、Gボール、ストレッチ、レクリエーション等）を通して、体を動かすことの『爽快感』や『楽しさ』を学んでいく。また、運動を楽しみながら『しなやか』で『美しい』身体を目指す。運動を実践しながら、コンディショニング・トレーニングの理論と方法を学習し、自分の生活状況や体力、関心に合わせた身体活動の実践ができるようになることを目的とする。</p> <p>痩せたい、筋肉をつけたい、スポーツがうまくなりたいなど、目的によって様々なトレーニング方法があり、メディアには多くの情報が氾濫している。しかし、運動（トレーニング）と身体の変化には原理・原則がある。その基礎理論を学ぶことにより、それらの情報の持つ正しい内容を理解できるようになる。目的に応じた適切なトレーニング・プログラムを自ら作成する力をつけ、継続的に実践することにより、自分の身体が変わっていくことを知る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（受講にあたっての注意）</p> <p>第2回：体力チェック</p> <p>第3回：体ほぐし運動、ストレッチ、レクリエーション</p> <p>第4回：フィジカルエクササイズ・プログラムの作成 筋力トレーニングの基礎</p> <p>第5回：トレーニングの実践 スロートレーニング</p> <p>第6回：トレーニングの実践 Gボール</p> <p>第7回：トレーニングの実践 寝たままできる体幹体操</p> <p>第8回：持久力トレーニングの基礎 ウォーキング</p> <p>第9回：持久力トレーニングの実践 ロゲイニング</p> <p>第10回：トレーニングの実践 コンディショニングと身体活動</p> <p>第11回：トレーニングの実践 ニュースポーツと身体活動</p>			

第12回：東洋的フィットネス1

第13回：東洋的フィットネス2

第14回：体力の評価

第15回：まとめ健康維持・リフレッシュ・最も自分に合っていると思う運動について

テキスト

授業内で資料を配布する。

参考書・参考資料等

適宜、授業で紹介していく。

学生に対する評価

期末レポート（習熟度チェック）：20% 平常点：80%

平常点は出席状況、実習における技能力、コミュニケーション力などを総合的に評価する。

授業科目名： 身体表現A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 五島亜津子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ワガノワメソッドに基づいたレッスンを通して、クラシックバレエの基礎を体験し習得する。バレエに必要な体幹作り、簡単なテクニックを習得する。</p> <p>クラシックバレエ作品を体験して踊る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>クラシックバレエワガノワメソッドに基づいた、バーレッスンとセンターレッスン。床ストレッチと簡単な筋トレ。代表的なバレエ作品の体験</p> <p>人類の誕生と共に発生したダンスは、歴史・民族・風土・社会と深く関わりながら舞踊文化・身体文化を作り上げてきた。ここでは芸術性を重視したダンス（バレエ等）を取り上げ、その歴史的変遷を学び、各ダンスの特徴を学習していく。同時に基本技術を習得し、身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：レッスン内容の説明 バレエの簡単な説明</p> <p>第2回：手足のポジション プリエ タンジュ ルルベ くるみ割り人形よりロシアの踊り</p> <p>第3回：手足のポジション プリエ タンジュ ルルベ くるみ割り人形よりロシアの踊り</p> <p>第4回：ジュッテ ロンデ ジャンプ アテール アンレール 小さいジャンプ 眠れる森の美女より元気の精の踊り</p> <p>第5回：ジュッテ ロンデ ジャンプ アテール アンレール 小さいジャンプ 眠れる森の美女より元気の精の踊り</p> <p>第6回：フォンジュ フラッペ トゥール 眠れる森の美女より元気の精の踊り</p> <p>第7回：フォンジュ フラッペ トゥール 眠れる森の美女よりフロリナ王女のVa</p> <p>第8回：アダジオ グランバットマン 大きいジャンプ 眠れる森の美女よりフロリナ王女のVa</p> <p>第9回：アダジオ グランバットマン 大きいジャンプ 眠れる森の美女よりフロリナ王女のVa</p> <p>第10回：バーレッスンを通す 踊りの練習をする</p> <p>第11回：センターレッスンを通す 踊りの練習をする</p> <p>第12回：出来る限りのレッスンを通す 踊りを復習する</p> <p>第13回：短縮でレッスンを通す 踊りの発表をする</p> <p>第14回：まとめプリントの復習 ポアントの紹介</p>			

第15回：まとめ
テキスト 無し
参考書・参考資料等 これ1冊できちんとわかるクラシックバレエ入門 K-BALLET バレエ用語集 Croise
学生に対する評価 期末レポート：40% 平常点：40% 出席率：20%

授業科目名： 身体表現B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 畔柳小枝子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>各自の身体能力の向上が目標である。ダンスの基礎トレーニングで柔軟性・筋力向上を目指し、ジャズダンスの特徴であるリズム感を養います。踊る事で音に合った表現を考え体全体を使う事により、感受性豊かな表現力を磨き、女性として大切な洗練された身のこなしを身につけることができる。また、ストレッチ・クロスフロアー・コンビネーションを通して他者とのコミュニケーションが円滑に行える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>正しいストレッチの仕方やダンスに必要な体の使い方を学びながら、洗練された身のこなしを身につけます。人生において最も大切な体づくりとして、体力維持・増強を目指し、JAZZならではのリズムや音色を聞き、動きを感じ、掴み、意識をしながら体全体を使い感性豊かに周囲とのコミュニケーションをとりダンスを踊ります。</p> <p>身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。ここでは現代的なリズムに合わせたダンス（ジャズダンス・ヒップホップ等）の歴史的変遷を学び、基本技術を習得し、身体を通して表現する。音楽にあわせて踊るジャズダンスやヒップホップといったダンスを通して身体に意識を向け、ダンステクニックの基礎を習得しながら、表現力と感性を高め、身体表現の可能性を広げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ストレッチエクササイズの説明・実践。コンビネーション（1）</p> <p>第2回：ストレッチエクササイズの説明・実践。コンビネーション（1）</p> <p>第3回：基礎訓練・リズムの乗り方、とり方。コンビネーション（1）</p> <p>第4回：基礎訓練・リズムの乗り方、とり方。コンビネーション（1）</p> <p>第5回：コンビネーション（1）重視。</p> <p>第6回：基礎訓練・正しい筋肉の使い方。コンビネーション（2）</p> <p>第7回：基礎訓練・正しい筋肉の使い方。コンビネーション（2）</p> <p>第8回：基礎訓練・正しい軸の掴み方。コンビネーション（2）</p> <p>第9回：基礎訓練・正しい軸の掴み方。コンビネーション（2）</p> <p>第10回：コンビネーション（2）重視。</p> <p>第11回：ステップ・ターン・ジャンプ中心。コンビネーション（3）</p>			

第12回：ステップ・ターン・ジャンプ中心。コンビネーション（3）
第13回：テクニックや表現の仕方に注意し踊る。コンビネーション（3）
第14回：総復習と実践コンビネーション（3）重視。
第15回：まとめ試験及びまとめ

テキスト
なし。

参考書・参考資料等

必要に応じては、動画配信・プリント配布又は、参考資料鑑賞。

学生に対する評価

授業内試験：70% 平常点：30%

授業科目名： 身体表現C	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉野由布子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 日本各地に伝統的に伝わる芸能を習得することを通して、日常のしぐさや外国のダンスとの類似点、相違点などを理解する。</p> <p>(2) たんに舞踊を習得するだけでなく、その芸能の歴史的・社会的背景をも含めて、伝統文化への理解を深める。</p> <p>(3) 浴衣の着付けができ、きちんとたためるようになり、和服についての理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>着物を着て日本の踊りを踊ることによって、外国のダンスやスポーツなどとの身体の運用法の違いを〈身体で〉学び、〈身体を〉学び、〈身体が〉学ぶ。授業では優美な手振りで知られる日本三大盆踊りの一つ「西馬音内盆踊り」を主にとりあげるが、ほかにも簡単に踊れる踊りを1～2種類とりあげる。また、実技以外に、いくつかの日本の踊りの映像から、広く歌舞伎や能楽など、日本の伝統芸能についての理解を深める時間を設ける。</p> <p>日本人の身体文化に注目する。日本人の立ち居振る舞い、その特徴、日本の舞踊文化の歴史の変遷を学ぶ。踊りを習得し衣装を付け、身体を通して表現する。授業を通して、日本の伝統文化を発信できる知識も養う。伝統に培われた自然な身体技法を身に付けながら日本文化の真髄をからだで味わい、表現する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：踊り1-1 立つ・歩く</p> <p>第3回：踊り1-2 浴衣を着る</p> <p>第4回：映像鑑賞</p> <p>第5回：踊り1-3 帯をむすぶ</p> <p>第6回：踊り1-4 和の身体と洋の身体</p> <p>第7回：踊り1-5 ナンバについて</p> <p>第8回：踊り1-6 全体構成</p> <p>第9回：踊り1-7 舞台舞踊と民俗舞踊</p> <p>第10回：映像鑑賞</p> <p>第11回：踊り2-1 かぶりもの</p>			

第12回：踊り2-2 はきもの

第13回：踊り2-3 全体構成

第14回：踊り1と2 全体構成

第15回：まとめ 仕上げ：衣装を身につけて全員で踊る

テキスト

資料は授業時に配布する。

参考書・参考資料等

- ・内田樹『わたしの身体は頭がいい』文春文庫、2007.
- ・矢田部英正『たたずまいの美学—日本人の身体技法』中公文庫、2011. .

学生に対する評価

平常点50% コメントペーパー20% 仕上げ（最終日）のパフォーマンス30%

授業科目名： Academic Discussion Skills A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Adamson, Gregory, R-Isherwood, Christopher, Tokumoto, Kent, Feeney, William, Marquet, Paul, Smith, Bryan, Schwartz, Benjamin, Heagney, Brian, Ratcliff, Esther, Russell, Michael, Nishikawa, Alexander, DeReza, Robert, 鈴木 夏代, Savage, Michael, 杉田 磨理子, Olson, Philip, Allan, Emily, Ashwin, Campbell, Lee, Sarah, Romano, Gregg 担当形態：クラス分け
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語4技能を統合させた Integrated Skills 型の本授業では、示唆に富む学術的なトピックに焦点を当てる。学生は以下を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ・ディスカッションで高頻度語 3,000 語を認識し、使用することができる。 2. 短時間の講義を聴き、ノートを取ることができる。 3. 講義で扱われた内容に関連するグループ・ディスカッションに参加するために、講義の内容を口頭で要約することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法を応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。少人数のグループ・ディスカッションに積極的に参加し、ファシリテーターの役割も経験する。講義の要点をまとめ、講義内容のトピックに関する理解や個人の意見について議論する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： コースの紹介 授業ルール 自己紹介 コースでの学習に必要な教室での言語の学習</p> <p>第2回： 学術的な内容の講義を聞いてメモを取る</p> <p>第3回： メモの取り方についてさらに練習する</p> <p>第4回： 教科書のトピックに関連する語彙を理解する</p> <p>第5回： 語彙の使い方についてさらに練習する</p>			

- 第6回： 学習した語彙を課題の中で積極的に活用する
- 第7回： 語彙の使用についてさらに練習する
- 第8回： 中期試験
短い講義を聞いて要点を口頭で要約する練習をする
- 第9回： 講義の要約発表についてさらに練習する
- 第10回：教科書に基づいたトピックについての短い話をする
- 第11回：トピックについての短い話をさらに練習する
- 第12回：教科書のトピックに関連した問題について話し合う
- 第13回：トピックに関連した問題についてさらに練習する
- 第14回：期末試験の準備と復習
- 第15回：復習と期末試験の実施

テキスト

Q: Skills for Success Level 2
Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice 3rd Edition
Oxford University Press

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

活動への積極的な参加 20%

語彙のクイズ 20%

アカデミックスキルの試験（中間と期末） 40%

スピーキングに関する評価（例：スピーチ、発表、討議など） 20%

授業科目名： Academic Discussion Skills B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Adamson, Gregory, R-Isherwood, Christopher, Tokumoto, Kent, Feeney, William, Marquet, Paul, Smith, Bryan, Schwartz, Benjamin, Heagney, Brian, Ratcliff, Esther, Russell, Michael, Nishikawa, Alexander, DeReza, Robert, 鈴木 夏代, Savage, Michael, 杉田 磨理子, Olson, Philip, Allan, Emily, Ashwin, Campbell, Lee, Sarah, Romano, Gregg 担当形態：クラス分け
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 Academic Discussion Skills A とは異なる示唆に富む学術的なトピックに焦点を当て、以下を習得する。 1. グループ・ディスカッションによって高頻度語 3,000 語の知識をさらに深め、使用練習を重ねる。 2. 講義の構成を把握し、ノートの取り方の実践練習を積むことで、英語の講義を聴く力を高める。 3. 授業内で取り上げられた学術的なトピックに関する個人やグループの短いプレゼンテーションを作成し行うことが出来る。			
授業の概要 リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法を応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。学生は講義の構成を示す表現に注意を払って聴き、略語の使用によってノートを取るスキルをさらに向上させる。ペア、グループ、クラス全体でのディスカッションに積極的に参加することで、講義で示された発想や問題に対する自分の意見を述べる実践練習をさらに重ねる			
授業計画 第1回：コースの紹介 最近の活動について自己紹介。コースでの学習に必要な教室での言語の学習 第2回：学術的な内容の講義を聞いてメモを取る 第3回：メモの取り方についてさらに練習する 第4回：教科書のトピックに関連する語彙を理解する 第5回：語彙の使い方についてさらに練習する 第6回：学習した語彙を課題の中で積極的に活用する 第7回：語彙の使用についてさらに練習する 第8回：中期試験 短い講義を聞いて要点を口頭で要約し、さらに要約を書く			

<p>第9回：講義の要約発表についてさらに練習する</p> <p>第10回：教科書に基づいたトピックについての短い話をする</p> <p>第11回：トピックについての短い話をさらに練習する</p> <p>第12回：教科書のトピックに関連した問題について話し合い、内容について自分の意見を述べる。</p> <p>第13回：トピックに関連した問題についてさらに練習する</p> <p>第14回：期末試験の準備と復習</p> <p>第15回：復習と期末試験の実施</p>
<p>テキスト</p> <p>Q: Skills for Success Level 2 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice 3rd Edition Oxford University Press</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>活動への積極的な参加 20%</p> <p>語彙のクイズ 20%</p> <p>アカデミックスキルの試験（中間と期末） 40%</p> <p>スピーキングに関する評価（例：スピーチ、発表、討議など） 20%</p>

授業科目名： Integrated English A	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Ratcliff, Esther 担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> • Integrated English B とは異なるトピックについて多様な価値観や視点を英語で学び、英語で自己の見解を主張できるための総合的英語運用能力を身につける。 • グローバルな視点から、異領域への関心、共感、理解を深める。 • 海外の大学での学修に取り組むために必要な、英語力の基礎を養う。 • 高頻度語 5,000 語を認識し、使用することができる。 <p>The goals of the course are for students to:</p> <ul style="list-style-type: none"> -learn about diverse values and perspectives in English and acquire overall English language skills to express one's views in English. -deepen one's understanding from a global perspective about topics/issues related to different parts of the world. -develop interest in different disciplines, and nurture empathy and global awareness through an interdisciplinary approach in the understanding of one's environment and experiences. -develop the basic academic English skills necessary to engage in studies at universities abroad. -recognize and use 5,000 high-frequency vocabulary items 			
<p>授業の概要</p> <p>Integrated English B と異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を習得する。</p> <p>Integrated English A is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English B), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students improve their language skills in vocabulary, grammar and pronunciation, and through communicative activities, they develop the ability to</p>			

understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields.

授業計画

第1回 : 1- Course Overview, Academic Orientation p. 10 & 12, Strategies for Learning Vocabulary (supplementary material)

科目の概要、アカデミックオリエンテーション、語彙を学習する方法 (補助教材)

第2回 : 2- Unit 1: Choices and implications - Reading p.16-17 and Speaking (supplementary material)

Unit 1: 選択とその意味 —リーディング p. 16-17, スピーキング (補助教材)

第3回 : 3- Unit 1: Choices and implications - Writing p.20-22 and Grammar p.24

Unit 1: 選択とその意味 —ライティング p. 20-22, 文法 p. 24

第4回 : 4- Unit 1: Choices and implications - Listening (supplementary material), Speaking (supplementary material) and Vocabulary p.25

Unit 1: 選択とその意味 —リスニング (補助教材), スピーキング (補助教材), 語彙 p.25

第5回 : 5-Unit 3: Language and communication - Reading p.43-p.44 and Speaking p.46

Unit 3: 言語とコミュニケーション —リーディング p.43-44, Speaking p.46

第6回 : 6-Unit 3: Language and communication - Writing p.48-49 and Vocabulary p.53

Unit 3: 言語とコミュニケーション —ライティング p.48-49, 語彙 p.53

第7回 : 7-Unit 3: Language and communication - Listening (supplementary material), Speaking p.46 and Grammar p.52

Unit 3: 言語とコミュニケーション —リスニング (補助教材), スピーキング p.46, 文法 p.52

第8回 : 8-Unit 4: Difference and diversity - Reading p.54-p.55 and Writing p.60-61

Unit 4: 差異と多様性 —リーディング p.54-55, ライティング p.60-61

第9回 : 9-Unit 4: Difference and diversity - Listening p.59, Speaking p.60, Grammar p.64

Unit 4: 差異と多様性 —リスニング p.59, スピーキング p.60, 文法 p.64

第10回 : 10-Unit 4: Difference and diversity - Writing (supplementary material), Speaking p.60 and Vocabulary p.65

Unit 4: 差異と多様性 —ライティング (補助教材), スピーキング p.60, 語彙 p.64

第11回 : 11-Unit 5: The world we live in - Reading p.73-74 and Writing p.77-78

Unit 5: 我々の住む世界 —リーディング p.73-74, ライティング p.77-78

第12回 : 12-Unit 5: The world we live in - Listening p.75, Speaking p.76 and Vocabulary p.81

<p>Unit 5: 我々の住む世界 —リスニング p.75, スピーキング p.76, 語彙 p.81</p> <p>第13回: 13-Unit 5: The world we live in - Writing (supplementary material), Speaking p.76 and Grammar p.80</p> <p>Unit 5: 我々の住む世界 —ライティング (補助教材), スピーキング p.76, 文法 p.80</p> <p>第14回: 14- Writing Test (Essay 300-350 words) / Vocabulary Quiz</p> <p>ライティングテスト (300-350 語のエッセイ)、語彙クイズ</p> <p>第15回: 15- Review of course objectives / Feedback on Writing Test and Quiz</p> <p>コース目標の達成度の振り返り、ライティングテストと語彙クイズの振り返り</p>
<p>テキスト</p> <p><i>Cambridge Academic English, B2 Upper Intermediate, Student's Book.</i></p> <p>Cambridge University Press.</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>プリントを配付する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内試験 30%, 期末レポート 20%, 平常点 (発表を含む) 30%, クイズや課題 20%</p>

授業科目名： Integrated English B	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Cunningham, Neale 担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> Integrated English B とは異なるトピックについて多様な価値観や視点を英語で学び、英語で自己の見解を主張できるための総合的英語運用能力を身につける。 グローバルな視点から、異領域への関心、共感、理解を深める。 海外の大学での学修に取り組むために必要な、英語力の基礎を養う。 高頻度語 5,000 語を認識し、使用することができる。 <p>The goals of the course are for students to:</p> <ul style="list-style-type: none"> -learn about diverse values and perspectives in English and acquire overall English language skills to express one's views in English. -deepen one's understanding from a global perspective about topics/issues related to different parts of the world. -develop interest in different disciplines, and nurture empathy and global awareness through an interdisciplinary approach in the understanding of one's environment and experiences. -develop the basic academic English skills necessary to engage in studies at universities abroad. -recognize and use 5,000 high-frequency vocabulary items 			
<p>授業の概要</p> <p>Integrated English A と異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を習得する。</p> <p>Integrated English B is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English A), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students improve their language skills in vocabulary, grammar and pronunciation, and through communicative activities, they develop the ability to</p>			

understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields.

Understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields.

授業計画

第1回 : Course introduction. Getting to know one another. Understanding the academic orientation (pp. 10-12).

科目の概要紹介。お互いを知る。アカデミックオリエンテーション。

第2回 : Organizing and developing academic vocabulary. Focusing on appropriate usage in context. Discussing personal vocabulary recording techniques (p. 13; pp. 24-25; pp. 36-37; pp. 171-176).

アカデミックな語彙の整理と習得。文脈における適切な使用。自分で語彙を記録する方法についての議論。(p.13, 24-25, 26-27, 171-176)

第3回 : Listening to an academic lecture and making notes (Lecture skills A; pp. 38-39).

学術的な講義を聞き、ノートをとる。(講義スキルA, pp.38-39)

第4回 : Listening to an academic lecture and making notes (Lecture skills A; pp. 40-41).

学術的な講義を聞き、ノートをとる。(講義スキルA, pp.40-41)

第5回 : Writing a summary of a lecture based on notes. Review of paragraph writing (supplementary materials).

ノートをもとに講義のまとめを書く。パラグラフライティングのまとめ。(補助教材)

第6回 : Skimming and scanning academic texts. Reading for gist (pp. 16-19).

学術的な文章のスキミングとスキヤニング。要点をつかんで読む。(pp.16-19)

第7回 : Skimming and scanning academic texts. Making notes of main points (pp. 54-56)

Summarizing texts from notes in a paragraph (pp. 72-74).

学術的な文章のスキミングとスキヤニング。重要な点を記録する。(pp.54-56)

ノートをもとに一段落で文章をまとめる。(pp.72-74)

第8回 : Evaluating what you read critically and selecting information (pp. 14-15; p. 98).

読んだものを批判的に、情報を選択して、評価する。(pp.14-15, p.98)

第9回 : Writing an academic essay and developing a thesis statement (supplementary materials). Essay types and general structure (pp. 20-23).

論旨を展開して学術的なエッセイを書く。(補助教材) エッセイのタイプと一般的な構造。(pp.20-23)

第10回 : Avoiding plagiarism through citations (pp. 47-49). Using reporting verbs (p. 51).

Peer reviewing written work; editing and revising written work (supplementary materials).

剽窃とにならないような引用の仕方。(pp.47-49) 報告動詞の使い方。

第1 1回 : Preparing a logically organized presentation on the research topic (supplementary materials).

あるリサーチトピックについての論理的に構成された発表の準備。(補助教材)

第1 2回 : Delivery of presentations. Writing a short reflection based on peer / teacher feedback.

発表。フィードバックをもとに振り返りを書く。

第1 3回 : Review and preparation for final exam.

まとめと試験の準備。

第1 4回 : Final exam.

授業内試験。

第1 5回 : Review of course objectives. Feedback on essay and final exam.

コース目標の達成度の振り返り。エッセイと試験の振り返り。

テキスト

Cambridge Academic English, B2 Upper Intermediate, Student's Book.

Cambridge University Press.

参考書・参考資料等

プリントを配付する。

学生に対する評価

授業内試験 30%, 期末レポート 20%, 平常点(発表を含む) 30%, クイズや課題 20%

授業科目名： Integrated English C	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Cunningham, Neale 担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> Integrated English C とは異なるトピックについて多様な価値観や視点を英語で学び、英語で自己の見解を主張できるための総合的英語運用能力を身につける。 グローバルな視点から、異領域への関心、共感、理解を深める。 海外の大学での学修に取り組むために必要な、英語力の基礎を養う。 高頻度語 5,000 語を認識し、使用することができる。 <p>The goals of the course are for students to:</p> <ul style="list-style-type: none"> -learn about diverse values and perspectives in English and acquire overall English language skills to express one's views in English. -deepen one's understanding from a global perspective about topics/issues related to different parts of the world. -develop interest in different disciplines, and nurture empathy and global awareness through an interdisciplinary approach in the understanding of one's environment and experiences. -develop the basic academic English skills necessary to engage in studies at universities abroad. -recognize and use 5,000 high-frequency vocabulary items 			
<p>授業の概要</p> <p>Integrated English A と異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を習得する。</p> <p>Integrated English C is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English A), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students improve their language skills in vocabulary, grammar and pronunciation, and through communicative activities, they</p>			

develop the ability to understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields.

Understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields.

授業計画

第1回 : Course introduction. Getting to know one another. Reviewing the academic orientation (pp. 10-12). Discussing personal vocabulary recording techniques. Sharing reasoned ideas about the best methods.

科目の概要紹介。お互いを知る。アカデミックオリエンテーション。(pp.10-12) 自分で語彙を記録する方法についての議論。最善の方法についての理由付けを共有する。

第2回 : Listening to an academic lecture and making notes. (Lecture skills B, pp. 66-67).

学術的な講義を聞き、ノートをとる。(講義スキルB, pp.38-39)

第3回 : Listening to an academic lecture and making notes (Lecture skills B, pp. 68-69).

Writing a paragraph summary of a lecture based on notes.

学術的な講義を聞き、ノートをとる。(講義スキルB, pp.38-39) ノートをもとに1段落で講義のまとめを書く。

第4回 : Predicting the content of an academic text. Reading for detail. Scanning for information (pp. 42-44). Thinking about ways of note-taking; comparing strengths and weaknesses (p. 45).

学術的な文章の内容を予測する。詳細を読む。情報のスキヤニング。(pp.42-44) ノートをとる方法について考える(良い点と悪い点の比較)。(p.45)

第5回 : Understanding the implicit meanings of an academic text (p. 45). Summarizing texts from notes in a paragraph.

学術的な文章の背後にある意味を理解する。(p.45) ノートをもとに1段落で講義のまとめを書く。

第6回 : Studying about a topic and researching specific questions. Evaluating internet sources

and discussing the advantages for academic research. Writing a short report.

トピックについて調べ、特定の問題について調査する。インターネット上の情報を評価し、学術的な研究に使用することの利点を議論する。短いレポートの作成。

第7回 : Leading and managing a group discussion individually on an interesting academic article (supplementary materials).

関心のある学術論文について、グループ討論を指導したり管理したりする。

第8回 : Building pairs or groups. Deciding upon a research topic. Making suggestions in

group work (pp. 46-47).

ペアまたはグループを作る。研究するトピックを定め、グループワークの進め方を議論する。(pp.46-47)

第9回 : Preparing a logically organized presentation on a research project. Introducing your presentation; clarifying key terms (pp. 19-20). Reaching a consensus in group work (pp.75-76).

あるリサーチトピックについての論理的に構成された発表の準備。重要語を明確にし、発表内容を紹介する。(pp.19-20)グループワークの進め方についてのコンセンサスを得る。(pp.75-76)

第10回 : Preparing a logically organized presentation on a research project. Concluding presentations (pp. 103-105). Presentation practice.

あるリサーチトピックについての論理的に構成された発表の準備。発表の結論をまとめる。(pp.103-105)発表の練習。

第11回 : Delivery of academic presentations. Writing a short reflection based on peer / teacher feedback.

アカデミックプレゼンテーションを行う。フィードバックをもとに振り返りを書く。

第12回 : Writing an academic essay and developing a thesis statement. Review of quoting, paraphrasing and summarizing (supplementary materials). Peer reviewing essays, editing and revising.

学術的なエッセイを書き、論旨を展開させる。引用の仕方の復習、言い換え、まとめ(補助教材)。エッセイをお互いに読み、修正する。

第13回 : Review and preparation for final exam.

まとめと試験の準備。

第14回 : Final exam.

授業内試験。

第15回 : Review of course objectives. Feedback on essay and final exam.

コース目標の達成度の振り返り。エッセイと試験の振り返り。

テキスト

Cambridge Academic English, B2 Upper Intermediate, Student's Book.

Cambridge University Press.

参考書・参考資料等

プリントを配付する。

学生に対する評価

授業内試験 30%, 期末レポート 20%, 平常点(発表を含む) 30%, クイズや課題 20%

授業科目名： Integrated English D	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Cunningham, Neale 担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> • Integrated English C とは異なるトピックについて多様な価値観や視点を英語で学び、英語で自己の見解を主張できるための総合的英語運用能力を身につける。 • グローバルな視点から、異領域への関心、共感、理解を深める。 • 海外の大学での学修に取り組むために必要な、英語力の基礎を養う。 • 高頻度語 5,000 語を認識し、使用することができる。 <p>The goals of the course are for students to:</p> <ul style="list-style-type: none"> -learn about diverse values and perspectives in English and acquire overall English language skills to express one's views in English. -deepen one's understanding from a global perspective about topics/issues related to different parts of the world. -develop interest in different disciplines, and nurture empathy and global awareness through an interdisciplinary approach in the understanding of one's environment and experiences. -develop the basic academic English skills necessary to engage in studies at universities abroad. -recognize and use 5,000 high-frequency vocabulary items 			
<p>授業の概要</p> <p>Integrated English A と異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を習得する。</p> <p>Integrated English D is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English A), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students improve their language skills in vocabulary, grammar and pronunciation, and through communicative activities, they</p>			

develop the ability to understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields.

Understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields.

授業計画

第1回 : Course introduction. Getting to know one another. Reviewing the academic orientation (pp. 10-12). Discussing personal vocabulary recording techniques. Sharing reasoned ideas about the best methods.

科目の概要紹介。お互いを知る。アカデミックオリエンテーション。(pp.10-12) 自分で語彙を記録する方法についての議論。最善の方法についての理由付けを共有する。

第2回 : Listening to an academic lecture and making notes. (Lecture skills B, pp. 66-67).

学術的な講義を聞き、ノートをとる。(講義スキルB, pp.38-39)

第3回 : Listening to an academic lecture and making notes (Lecture skills B, pp. 68-69).

Writing a paragraph summary of a lecture based on notes.

学術的な講義を聞き、ノートをとる。(講義スキルB, pp.38-39) ノートをもとに1段落で講義のまとめを書く。

第4回 : Predicting the content of an academic text. Reading for detail. Scanning for information (pp. 42-44). Thinking about ways of note-taking; comparing strengths and weaknesses (p. 45).

学術的な文章の内容を予測する。詳細を読む。情報のスキヤニング。(pp.42-44) ノートをとる方法について考える(良い点と悪い点の比較)。(p.45)

第5回 : Understanding the implicit meanings of an academic text (p. 45). Summarizing texts from notes in a paragraph.

学術的な文章の背後にある意味を理解する。(p.45) ノートをもとに1段落で講義のまとめを書く。

第6回 : Studying about a topic and researching specific questions. Evaluating internet sources

and discussing the advantages for academic research. Writing a short report.

トピックについて調べ、特定の問題について調査する。インターネット上の情報を評価し、学術的な研究に使用することの利点を議論する。短いレポートの作成。

第7回 : Leading and managing a group discussion individually on an interesting academic article (supplementary materials).

関心のある学術論文について、グループ討論を指導したり管理したりする。

第8回 : Building pairs or groups. Deciding upon a research topic. Making suggestions in

group work (pp. 46-47).

ペアまたはグループを作る。研究するトピックを定め、グループワークの進め方を議論する。(pp.46-47)

第9回 : Preparing a logically organized presentation on a research project. Introducing your presentation; clarifying key terms (pp. 19-20). Reaching a consensus in group work (pp.75-76).

あるリサーチトピックについての論理的に構成された発表の準備。重要語を明確にし、発表内容を紹介する。(pp.19-20)グループワークの進め方についてのコンセンサスを得る。(pp.75-76)

第10回 : Preparing a logically organized presentation on a research project. Concluding presentations (pp. 103-105). Presentation practice.

あるリサーチトピックについての論理的に構成された発表の準備。発表の結論をまとめる。(pp.103-105)発表の練習。

第11回 : Delivery of academic presentations. Writing a short reflection based on peer / teacher feedback.

アカデミックプレゼンテーションを行う。フィードバックをもとに振り返りを書く。

第12回 : Writing an academic essay and developing a thesis statement. Review of quoting, paraphrasing and summarizing (supplementary materials). Peer reviewing essays, editing and revising.

学術的なエッセイを書き、論旨を展開させる。引用の仕方の復習、言い換え、まとめ(補助教材)。エッセイをお互いに読み、修正する。

第13回 : Review and preparation for final exam.

まとめと試験の準備。

第14回 : Final exam.

授業内試験。

第15回 : Review of course objectives. Feedback on essay and final exam.

コース目標の達成度の振り返り。エッセイと試験の振り返り。

テキスト

Cambridge Academic English, B2 Upper Intermediate, Student's Book.

Cambridge University Press.

参考書・参考資料等

プリントを配付する。

学生に対する評価

授業内試験 30%, 期末レポート 20%, 平常点(発表を含む) 30%, クイズや課題 20%

授業科目名：DS・ICT 入門 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：春名太一、石原 知洋、白銀純子、北澤武、宮 脇郁、小西善二郎、上田卓司 、渡邊圭一、梅垣正宏、加藤 尚吾、中村宏 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操 作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会におけるデータ・AI活用の現状や留意事項について理解している。 ● 情報分野の基本的なスキルであるコンピュータの操作、電子メール、Webによる情報検索や文献検索、ファイルやフォルダの操作ができる。 ● 情報倫理やセキュリティ、著作権と正しい引用の知識が身についている。 ● Officeソフトの基本的なスキルが身についている。 			
<p>授業の概要</p> <p>インターネットやAI・データサイエンスをはじめとした今日の情報通信社会で必要とされる基礎的な技能と概念を習得し、問題分析能力や問題解決能力を養うことを目的とする。コンピュータの基本操作、インターネット・WWW・電子メールの概念や仕組み、情報の検索と利用、著作権と引用、ファイルシステム、情報倫理、安全対策、ワープロ・表計算・プレゼンテーションの利用、データ・AIの社会での活用方法や留意事項などを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 導入1</p> <p>キーボードとマウスについての説明、本人認証(ログイン、ログアウト、パスワード)についての説明、ログインパスワード、履修登録パスワード、メールパスワードについての説明、パスワード変更についての説明、東女のシステム利用(シラバス閲覧・科目登録)、著作権(概要と引用)、タイピング練習についての説明、Microsoft365の利用方法の説明</p> <p>第2回 導入2</p> <p>パスワード変更、電子メール、電子メールの概要、ヘッダ(宛先、Cc、Bcc、件名など)、東女Gmail、東女Gmailの操作(文字列の複写・移動・削除、受信、送信、署名、添付、携帯電話からの利用)、電子メール利用のマナー</p> <p>第3回 ファイルシステム1</p>			

ファイルとフォルダ、文字入力と保存

第4回 図書館1年次必須情報検索ガイダンス

図書館の使い方(文献の検索や貸出)

第5回 インターネットとサービスの仕組み

WWW(概要)、URL、ブラウザ

第6回 WWWと情報の検索・利用

情報検索の必要性和効率化、検索エンジン利用の心得

第7回 著作権、引用、情報と法律

著作権の概要と著作物の利用

第8回 社会におけるデータ・AI利活用

社会で起きている変化、活用されているデータ、データ活用の技術・活用の現場・最新動向

第9回 データ・AI利活用における留意事項

データ・AIを扱う際の留意事項

第10回 Infoss情報倫理

序章 インターネットを始める前に、第1章 ユーザ認証とアカウント、第2章 インターネットの基本的な注意点、第3章 インターネット上のコミュニケーション、第4章 インターネットでの取引、第5章 セキュリティ対策、第6章 著作権と個人情報保護法、第7章 ネットワーク社会を取り巻く法律

第11回 ファイルシステム2

ファイルシステムの復習、フォルダとファイル操作

第12回 Office アプリ1

Microsoft Word

第13回 Office アプリ2

Microsoft Excel

第14回 Office アプリ3

Microsoft PowerPoint

第15回 総合発展課題

Officeアプリの統合的な活用

テキスト

奥村晴彦・森本尚之『改訂第5版 基礎からわかる情報リテラシー』（技術評論社）

吉岡剛志・森倉悠介・小林領・照屋健作『AIデータサイエンスリテラシー入門』（技術評論社）

参考書・参考資料等

必要があれば講義の中で紹介する。

学生に対する評価

平常点、学期中の課題、タイピング、1年次必須情報検索ガイダンスWebテストの受講状況、Infoss情報倫理修了テストの成績、総合発展課題により評価する。

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野 誠哉
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育および人間形成の基礎的な理念を習得すること。 2. 学校教育の沿革についての基礎的な教養を身につけること。 3. 教育思想の特徴を思想的に把握すること。 			
授業の概要			
<p>この授業では、教育の基礎的な理念や人間形成において不可欠な理念について学ぶとともに、日本における教育の歴史について概観し、教育の現状を歴史的に考察できる力を育成する。また、主な世界的な教育思想家について取り上げ、それぞれの教育思想の特徴を把握し、現在の教育を思想的に考察できる力を養う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：教育の理念①（公教育の成り立ち） 第2回：教育の理念②（公教育の基本原理） 第3回：教育の理念③（教育制度の基本構造） 第4回：日本の教育の歴史①（江戸時代の教育状況） 第5回：日本の教育の歴史②（近代公教育制度の幕開け） 第6回：日本の教育の歴史③（明治期の展開） 第7回：日本の教育の歴史④（大正期の展開） 第8回：日本の教育の歴史⑤（戦時下の教育） 第9回：日本の教育の歴史⑥（戦後教育改革） 第10回：日本の教育の歴史⑦（戦後教育の展開） 第11回：教育の思想史①（コメニウス・ルソー） 第12回：教育の思想史②（コンドルセ・ペスタロッチ・ヘルバルト） 第13回：教育の思想史③（フレーベル・デューイ） 第14回：人間形成の理念①（歴史の中の子ども） 第15回：人間形成の理念②（育児としつけ）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			
特に指定しない。資料プリントを適宜配布する。			
参考書・参考資料等			
<p>横須賀薫ほか編『図説 教育の歴史』（河出書房新社、2008年） 今井康夫編『教育思想史』（有斐閣、2009年）</p>			
学生に対する評価			
<p>授業内試験 30% 授業内のペーパー課題 40% 定期試験 30%</p>			

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野 誠哉、大家 まゆみ
			担当形態： クラス分け・単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育制度や教員養成のしくみ、教員免許制度等、学校教員をとりまく制度的な事項についての基礎的な知識を身につけること。 2. 教職の意義や教員の役割、チーム学校への対応等も含めた職務内容について理解し、教職に就くにあたっての自覚を高めること。 3. 学校ならびに教員の置かれた現状について理解を深めるとともに、近時の教職志望者の前に待ち受ける様々な状況に対処できる心構えを形成すること。 			
授業の概要 <p>教職課程履修プログラムの最初のステップとして、「教職入門」ないし「教職への招待」を意識した内容の授業を進めていく。すなわち、教育制度や教員養成のしくみ、教員免許制度等、学校教員をとりまく制度的な事項についての基礎的な事項を学ぶとともに、学校や教員の置かれた現状について考えていくための素材を提供していく。特に、教育界の最新事情に触れてもらうべく、新聞記事やビデオ映像資料等を積極的に活用した授業を展開していく。</p>			
授業計画 <p>第1回：ガイダンス 第2回：教職とは 第3回：教育制度の概要 第4回：教員養成の歴史 第5回：教員養成の現状 第6回：教員免許制度 第7回：「チームとしての学校」運営と学校組織 第8回：教育実習 第9回：教員の採用のしくみ 第10回：教員の採用の現状 第11回：教員の身分と服務 第12回：教員の研修と職務 第13回：教員の多忙とストレス 第14回：「教育」の落とし穴 第15回：教員の不祥事について考える</p>			
テキスト <p>大家まゆみ・本田伊克編『これからの教職論』（ナカニシヤ出版、2022年）</p>			
参考書・参考資料等 <p>佐藤晴雄『教職概論』（学陽書房、2018年）</p>			
学生に対する評価 <p>授業内試験 30% 授業内のペーパー課題 30% 期末レポート課題 40%</p>			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野 誠哉
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 社会学的な視点から教育を捉えるという分析視角を身につけ、固定観念や社会通念にとらわれない柔軟な分析力を養うこと。</p> <p>2. 学校と地域との連携のあり方について理解するとともに、学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付けること。</p>			
授業の概要			
<p>教育という営みは、往々にしてナイーブな観点から、しかも情緒的な反応を伴いつつ捉えられがちである。しかしながらその一方で、近現代社会におけるそれが社会現象としての側面を有していることもまた確かである。教育という営みのまさにそうした側面に対して社会学的な冷徹な視点でもってアプローチしていくのが、教育社会学という学問である。この授業では、教育社会学という枠組のもとで行なわれてきた研究テーマのなかのいくつかを取り上げ、そこで明らかにされてきた知見に触れながら、教育という社会的現象をめぐる諸問題について考えていく。またそのうえで、学校現場に携わる者に求められる現実的対応について考えていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：学校と社会 第2回：進学をめぐる状況 第3回：教育拡大がもたらしたもの 第4回：学校から職業への移行 第5回：学校と社会移動 第6回：教育の不平等 第7回：教育の格差 第8回：再生産のメカニズム 第9回：教育とジェンダー 第10回：少年犯罪の現状 第11回：いじめ問題 第12回：不登校問題 第13回：学校と地域社会 第14回：学校安全と危機管理 第15回：部活動について考える</p>			
テキスト			
特に指定しない。資料プリントを適宜配布する。			
参考書・参考資料等			
酒井朗・多賀太・中村高康編『よくわかる教育社会学』（ミネルヴァ書房、2012年）			
学生に対する評価			
<p>授業内試験 30% 授業内のペーパー課題 30% 期末レポート 40%</p>			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大家まゆみ 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・発達と教育に求められる心理学の基礎的知識を身につける。 ・実際に学校内外の教育現場で生ずる様々な心理的諸問題を概観する。 ・子どもの心の発達についての教育心理学分野の様々な概念や理論についての知識を深め、学校教育における教師の役割を問い直す。 			
授業の概要 子どもの発達や学習、動機づけなどの教育に関わる心理学的なテーマについて学ぶ。学校内外の児童・生徒の成長を理解するために必要な教育心理学の基礎分野－発達、教授・学習、人格、社会性、測定・評価、思考・認知、臨床－を概観することによって、現代の教育現場における諸問題についても考える。また、現代社会の中で生じている教育心理学的な諸問題について学び、対策と改善点を考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：乳幼児期の発達 第3回：児童期・青年期の発達 第4回：認知発達 第5回：知能の歴史とアセスメント 第6回：人格の発達 第7回：社会性と自我の発達 第8回：記憶と学習 第9回：知識獲得と誤概念 第10回：動機づけの発達 第11回：現代の学校における諸問題（1）不登校 第12回：学級集団づくりと仲間関係 第13回：現代の学校における諸問題（2）いじめ 第14回：教師のリーダーシップと同僚性 第15回：学習評価 定期試験は実施しない			

テキスト 中澤 潤 (編) 『よくわかる教育心理学』(第2版) ミネルヴァ書房, 2022年

参考書・参考資料等 必要な資料は配布する。

学生に対する評価：

- ・期末レポート 70%
- ・平常点 30%

以下の4点を基準に評価する。

- ・子どもの認知発達について理解できているか
- ・子どもの知能・人格・社会性の発達と支援について理解できているか
- ・現代の学校における諸問題と解決方法について考察できるか
- ・学級集団の心理的特徴について理解できているか

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大家まゆみ 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害や軽度知的障害をはじめとする障害のある生徒の教育的ニーズを理解する。 ・ 特別の支援を必要とする生徒のための教育課程と支援の方法を理解する。 ・ 障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の生活上の困難とチームとして学校が支援する必要性を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>通常の学級に在籍する様々な障害等があるために、適切な指導や支援を必要とする生徒の特性や発達について理解を深める。また、障害がなくとも特別の支援を必要とする生徒を把握し、一人一人の教育的ニーズに応え、学習や行動を支援するための方法および指導の在り方について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションーインクルーシブ教育</p> <p>第2回：特別支援教育コーディネーターと校内体制づくり</p> <p>第3回：通常学級の特別支援教育</p> <p>第4回：発達障害の理解と自立活動</p> <p>第5回：軽度知的障害の理解と支援</p> <p>第6回：視覚障害、聴覚障害の理解と障害特性に配慮した教育支援のあり方</p> <p>第7回：外国籍生徒への支援</p> <p>第8回：子どもの貧困問題のための体制整備と地域とのつながり</p> <p>第9回：知的障害、肢体不自由、病弱等の理解と支援</p> <p>第10回：思春期の発達障害</p> <p>第11回：個別の教育支援計画と指導計画</p> <p>第12回：教材・教具の工夫と開発</p> <p>第13回：思春期・青年期における生活支援と進路指導</p> <p>第14回：相談機関と学校・家庭の連携</p> <p>第15回：特別支援教育の専門性</p> <p>定期試験は実施しない</p>			

テキスト

1. 全国社会福祉協議会『よくわかる社会福祉施設』（第5版）全国社会福祉協議会
2. 全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟（編著）『介護等体験ガイドブック 新フイリア』ジアース教育新社，2020年

参考書・参考資料等

オリジナルのプリントを作成し、配布する。

学生に対する評価：

- ・期末レポート 70%
- ・平常点 30%

以下の3点を基準に評価する。

- ・特別の支援を必要とする生徒の障害特性と発達を理解できているか。
- ・通級による指導と自立活動を理解し、教育的ニーズに応じた教材・教具の工夫を考察できるか。
- ・障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の生活上の困難とチームとして学校が対応する必要性を理解しているか。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹内久顕
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法に関する知識を習得し理解を深める。 ・学習指導要領の意義と歴史に関する知識を習得し理解を深める。 			
授業の概要			
<p>「教育課程の意義と編成の方法」に関する諸課題を学ぶことで、自らカリキュラムを創造していくことのできる自立した教員になるための基礎的な資質を培うことを目標とする。学習指導要領に即して次の点を取り上げる。①教育課程の役割・機能・意義を理解する、②教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する、③教科等横断的な視点に立つカリキュラム・マネジメントを理解する。</p>			
授業計画			
第1回：教育課程編成の目的			
第2回：学習指導要領の性格と位置付け			
第3回：学習指導要領の変遷と背景(1)－1970年代以前			
第4回：学習指導要領の変遷と背景(2)－1980年代～2000年代			
第5回：学習指導要領の変遷と背景(3)－2010年代以降			
第6回：教育課程編成の基本原則(1)－スコープとシーケンス			
第7回：教育課程編成の基本原則(2)－系統主義と経験主義			
第8回：教育課程編成の基本原則(3)－教育課程の「分化と統合」			
第9回：カリキュラム・マネジメント(1)－「教科等横断的な視点」に立つ教育課程			
第10回：カリキュラム・マネジメント(2)－「関連性」と「協働性」			
第11回：カリキュラム・マネジメント(3)－PDCAサイクル			
第12回：カリキュラム評価の理論と実践例			
第13回：多様な教育課程(1)－SDGsと教育課程			
第14回：多様な教育課程(2)－主権者教育と教育課程			
第15回：多様な教育課程(3)－平和教育と教育課程			
定期試験			
テキスト			
『教育課程の意義と編成原理』（オリジナルプリント教材）			

柴田義松・山崎準二編著『教育の方法と技術』（教育学のポイントシリーズ）学文社

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）

『中学校学習指導要領解説－総則編』（平成29年7月）

『高等学校学習指導要領解説－総則編』（平成30年7月）

学生に対する評価

期末試験(85%)、レポート(15%)

授業科目名： 道徳教育の理論と 方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野 誠哉 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 1. 学校での道徳教育の可能性と限界について理解を深めること。 2. 道徳教育の歴史と思想について基本的な知識を身に付けること。 3. 道徳性の発達についての基本的な考え方を理解すること。 4. 道徳教育の実践について必要な知識と技術を習得すること。			
授業の概要 道徳教育をめぐる理念と歴史、理論等についての基礎的な事項について学習したうえで、「特別の教科 道徳」の授業を実地に運営していくためのスキル修得に向けた訓練に取り組んでいく。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：道徳は教えられるのか 第3回：道徳性の発達の理論 第4回：道徳教育の歴史①（戦前） 第5回：道徳教育の歴史②（戦後） 第6回：道徳教育と子どもの問題 第7回：道徳教育と生徒指導 第8回：道徳教育とシティズンシップ教育 第9回：道徳科の目標と内容 第10回：道徳科の教材と評価 第11回：指導計画と学習指導案の作成 第12回：模擬授業①（授業の組み立てを中心に） 第13回：模擬授業②（発問のスキルを中心に） 第14回：模擬授業③（教材開発を中心に） 第15回：今後の道徳教育の課題について			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』			
参考書・参考資料等 田中マリア編『道徳教育』（ミネルヴァ書房、2018年）			
学生に対する評価 授業内試験 30% 学習指導案の作成、ならびに模擬授業の発表内容 70%			

授業科目名： 総合的な学習（探究） の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹内 久頭 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標及び			
<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習（探究）の時間」の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 ・「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。 ・「総合的な学習（探究）の時間」の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。 ・「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画を作成する。 			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する「総合的な学習（探究）の時間」に関し、①意義と理念、②歴史、③学習指導要領上の位置づけを学ぶ。 ・各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために必要な、①指導計画の作成、②具体的な指導の仕方、③学習活動の評価に関する知識・技能を学ぶ。 			
授業計画			
第1回：「総合的な学習の時間」を振り返る(レポート作成)			
第2回：「総合的な学習の時間」の意義と問題点の整理			
第3回：教育課程の原理と「教科等横断的な視点」			
第4回：教育方法の原理と「探究的な学習」			
第5回：「新しい学力」「生きる力」と「探究的な見方・考え方」			
第6回：歴史と背景1－初期社会科			
第7回：歴史と背景2－総合的な学習の登場(90年代後半の中教審・教課審答申)			
第8回：歴史と背景3－総合的な学習の展開(98・08・17年告示の指導要領)			
第9回：授業内テスト、総合的な学習の目標・内容・方法・評価			
第10回：総合的な学習の指導方法(1)－「探究課題」「探究のプロセス」			
第11回：総合的な学習の指導方法(2)－「指導計画(全体計画・年間指導計画・単元計画)」			
第12回：総合的な学習の指導方法(3)－ICT機器の活用			

第13回：事例検討1－現代的な諸課題に対応する課題

第14回：事例検討2－地域や学校の特色に応じた課題

第15回：事例検討3－生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題

定期試験は実施しない

テキスト

とくに指定しない

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）

『中学校学習指導要領解説－総合的な学習の時間編』（平成29年7月）

『高等学校学習指導要領解説－総合的な探究の時間編』（平成30年7月）

学生に対する評価

小テスト（20%）、授業内レポート（40%）、最終レポート（40%）

授業科目名：特別活動 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊東 毅 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：共同性をはぐくむ特別活動実践の構想 到達目標：本科目の到達目標は、（１）学習指導要領上の特別活動の目標と内容、各教科等との関連、学級活動（ホームルーム活動）・生徒会・学校行事の特質などを理解し、（２）教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方、その評価と改善活動の重要性、また、家庭・地域・諸機関との連携の在り方などを理解するとともに、話し合いや議決の具体的な指導ができたりその例示ができたりすること、である。			
授業の概要 「特別活動」は1951年改訂の『学習指導要領一般編（試案）』に「特別教育活動」という名称で登場して以来、教育課程の重要な一分野として現在まで存続してきた。その内容は、増減を繰り返しながら中高の場合は現在の「学級活動（高等学校の場合は「ホームルーム活動」）」「生徒会活動」「学校行事」の3つに到っている。いずれにしても集団活動を通じて社会的なスキルを育成することが目指されている。また、各「教科」や「道徳」に比べて行動を伴う学習が期待されている。しかし、一方で「特別活動」は、特に「学校行事」をめぐる論争的になることもしばしばあった。本講義では、こうした「特別活動」の変遷を辿るとともに、特別活動の抱える問題点や課題を整理しつつ、その具体的な指導法についても確認していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業計画と集団づくりワークショップ「自己紹介・友人発見ビンゴゲーム」ほか） 第2回：特別活動の位置と概要―学校教育法施行規則と学習指導要領― 第3回：戦前の教科外活動の変遷 第4回：戦後の特別活動の変遷 第5回：学級活動・ホームルーム活動（その1）―朝の学活（SHR）・学級会（LHR）ほか 第6回：学級活動・ホームルーム活動（その2）―キャリア教育・シティズンシップ教育ほか 第7回：生徒会活動（その1）―生徒会の計画や運営／異年齢集団による交流／生徒の諸活動についての連絡調整 第8回：生徒会活動（その2）―学校行事への協力／ボランティア活動などの社会参加 第9回：学校行事（その1）―儀式的行事／文化的行事／健康安全・体育的行事			

第10回：学校行事（その2）—旅行・集団宿泊的行事／勤労生産・奉仕的行事

第11回：クラブ活動と部活動

第12回：諸外国の教科外活動

第13回：特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携

第14回：特別活動の評価と改善方法

第15回：特別活動の現状と課題

定期試験は実施しない

テキスト

伊東毅『未来の教師と考える特別活動論』武蔵野美術大学出版局、2022年

参考書・参考資料等

文部科学省「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示）

文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年7月）

文部科学省「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成30年7月）

学生に対する評価

授業で提示する課題への取り組み状況（20％）とレポート（80％）。

授業科目名： 教育方法論（ICTの活用を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹内久顕 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術に関する知識を習得し理解を深める。 ・情報機器及び教材の活用に関する知識と技術を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>「教育の方法と技術」「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に関する諸課題を学ぶことで、自ら教育方法を創造することができる教員になるための基礎的な資質を培うことを目標とする。学習指導要領に即して次の点を取り上げる。①これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。②教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。③情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、それらを効果的に活用した学習指導や校務の推進を理解する。④生徒に情報活用能力を育成するための基礎的な指導方法を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育方法の理念と原理－教育思想史上の事例</p> <p>第2回：教育方法の実践事例－目標・内容の設定</p> <p>第3回：教育方法の実践事例－教材・教具と授業形態</p> <p>第4回：教育方法の実践事例－指導言と板書構成</p> <p>第5回：アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の原理と方法</p> <p>第6回：アクティブ・ラーニングの実践事例－ICT機器の活用</p> <p>第7回：学習評価の原理と方法</p> <p>第8回：学習指導案の作成演習</p> <p>第9回：GIGAスクール構想の意義・背景と課題</p> <p>第10回：ICT教育の実践事例－授業での活用(一斉学習、個別学習)</p> <p>第11回；ICT教育の実践事例－授業での活用(協働学習)</p> <p>第12回；ICT教育の実践事例－オンライン教育での活用</p> <p>第13回；ICT教育の実践事例－学習評価と校務での活用</p> <p>第14回：デジタル・シティズンシップ教育－理論と背景</p> <p>第15回：デジタル・シティズンシップ教育－教科等横断的な実践事例</p>			

定期試験

テキスト

柴田義松・山崎準二編著『教育の方法と技術』（教育学のポイントシリーズ）学文社

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示）

『中学校学習指導要領解説－総則編』（平成29年7月）

『高等学校学習指導要領解説－総則編』（平成30年7月）

『教育の情報化に関する手引き（追補版）』（令和2年6月）

学生に対する評価

期末試験(85%)、レポート(15%)

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大家 まゆみ 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>授業のテーマ：現実を踏まえた生徒指導・進路指導のあり方を考える</p> <p>到達目標：本授業の到達目標は、生徒指導に関しては（１）その教育課程上の位置付け、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動との関係、集団指導・個別指導の方法、生徒指導体制と教育相談体制の各特徴を理解し、（２）学級担任・教科担任・生徒指導部教員などの役割、学校方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性、基礎的な生活習慣の確立・規範意識の醸成等の日常の生徒指導の在り方を理解したうえで、自己肯定感を高める指導方法を例示することができたり、（３）生徒指導関連法令、いじめ・不登校やインターネット・性に関する問題などへの対応の仕方を理解するとともに、児童虐待等の今日的な課題について専門家・関係機関との連携の在り方を例示することができることであり、また、進路指導に関しては（１）その教育課程上の位置付け、組織的な指導体制や家庭・関係諸機関との連携の在り方を理解したうえで、具体的な指導の在り方を例示することができたり、（２）職業体験活動などのキャリア教育に関するカリキュラム・マネジメントの意義やガイダンスの機能を生かした指導の要点を理解し、（３）生涯にわたるキャリア形成を見据えた自己評価の意義を理解したうえでポートフォリオの活用法を例示することができたり、キャリア・カウンセリングの基本を説明することができること、である。</p>			
授業の概要			
<p>今日、生徒指導を論じるとき、枕詞ででもあるかのように「いじめ」「不登校」「援助交際」「学級崩壊」という表現が繰り返される。しかし、はたしてこのような枕詞とともに語られる生徒指導論がこうした諸問題の分析と整合的に結びついているのであろうか。本講義では、徹底してこれらの諸問題にこだわり、そこから現代の生徒指導のあり方を問い直していきたい。また、生徒指導は「今」や「その場」に関わることのみを守備範囲とするのではない。未来の自分の姿を描くことが偏狭的な視野から子どもたちを解放する役割を担う。学習への動機を調達することにもつながる。こうした視点から、進路指導のあり方も問い直したい。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション—講義概要の紹介・評価基準の説明ほか・『生徒指導提要』（文科省）の概要の説明			
第2回：生徒指導の意義と原理（１）—生徒指導の意義と課題・教育課程における位置づけ—			
第3回：生徒指導の意義と原理（２）—集団指導と個別指導・子どもの発達と指導—			
第4回：教育課程と生徒指導—教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導—			

<p>第5回：生徒の心理と生徒理解—青年期の心理と発達・発達障害と思春期—</p> <p>第6回：学校における生徒指導体制・生徒指導主事の役割・教員研修・指導要録—</p> <p>第7回：生徒指導と教育相談—教育相談の進め方・スクールカウンセラーや施文期間等との連携—</p> <p>第8回：生徒全体への指導—チームによる支援・基本的生活習慣の確立・守秘義務と説明責任・安全—</p> <p>第9回：個別の課題を抱える生徒への指導①—問題行動の理解と指導—いじめと不登校</p> <p>第10回：個別の課題を抱える生徒への指導③—非行・インターネット—</p> <p>第11回：進路指導の意義と役割</p> <p>第12回：進路指導・キャリア教育における集団指導</p> <p>第13回：進路指導の理論—特性・因子理論・人格理論ほか—</p> <p>第14回：進路指導の構想—『13歳のハローワーク』・『14歳からの仕事道』から学ぶ—</p> <p>第15回：生徒指導・進路指導の校務分掌上の位置付けとまとめ</p>
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省 生徒指導提要 2022年</p> <p>大家まゆみ・稲垣勉（編）グローバル時代の教育相談 ナカニシヤ出版，2024年</p>
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期末レポート 70% ・ 平常点 30% <p>定期試験は実施しない</p>

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大家まゆみ、田中志帆 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の基礎となる心理学理論とカウンセリングの姿勢・技法を習得する。 ・学校教育に必要なカウンセリングマインドを身につける。 ・学校で実践的に用いられるカウンセリングの実際についてロールプレイ、事例に関するディスカッションなどアクティブ・ラーニングを取り入れることによって体得し、教育実践に役立つ知識とスキルを体得する。 ・教育相談に必要な基礎的なカウンセリングの知識を身につけるとともに、教師－生徒関係のあり方を洞察し、学校として組織的に対応する姿勢を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>不登校、いじめ、非行等の問題行動の背景にある諸問題について考察する。また、カウンセリングの基礎的な理論と技法を理解し、学校に不適応な生徒の理解と支援、保護者との連携を具体的に学ぶ。児童期から青年期への移行期にある子どもの問題行動の原因と社会的適応についての知識を習得し、どのような指導や援助が求められているのかを事例およびロールプレイなどのアクティブ・ラーニングを取り入れることによって習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：教育相談と教師（1）</p> <p>第3回：教育相談と教師（2）</p> <p>第4回：これからの教育相談のあり方</p> <p>第5回：不登校・虐待・非行</p> <p>第6回：いじめ</p> <p>第7回：特別な支援を必要とする子どもへの対応</p> <p>第8回：医療機関における心理的支援と学校連携</p> <p>第9回：教育相談に活かせる心理療法の基礎理論と実践</p> <p>第10回：スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの仕事</p> <p>第11回：仲間関係を深める学級構造と学級集団づくり</p> <p>第12回：インターネット問題</p> <p>第13回：性教育のあり方</p>			

第14回：学校危機と緊急支援
第15回：子どもの心を理解する
テキスト 大家まゆみ・稲垣勉（編）グローバル時代の教育相談 ナカニシヤ出版, 2024年
参考書・参考資料等 オリジナルのプリントを作成し、配布する。
学生に対する評価 ・期末レポート 70% ・平常点 30% 以下の3点を基準に評価する。 ・教育相談について理解できているか ・いじめ、不登校、発達障害など現代の教育現場における諸問題を理解できているか ・学校教育における心理臨床のあり方を理解できているか

授業科目名： 教職実践演習（中・高）		単位数：2単位		担当教員名： 教科担当教員： 吉野由起、原田敦史、酒井一臣、 山内博 教職担当教員： 竹内久顕、大家まゆみ、河野誠哉	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 20人(4クラス)					
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>教職に関する科目の担当教員と教科に関する科目の担当教員との協力のもとで、授業の立案および担当、履修カルテ、教育実習の成績及び教育実習日誌等に基づく個別的な指導を行う。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法をふまえ、教職の使命と責任及び教職の意義を正しく理解し確認する。 ・子ども・同僚・保護者等との対人関係能力を身につけ、学校が抱える諸問題を適切に解決する力を獲得する。 ・学級経営の理念と方法に関する理解と技術を習得する。 ・教科の適切な指導法（教科等の知識や技能（ICTの活用を含む）など）を身につける。 ・教育実習をはじめとする教職課程で学んだことを振り返り、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補う。 					
<p>授業の概要</p> <p>地域の公立中学校管理職から「教職の現状と課題」「これからの教員にとって必要な資質」について学ぶとともに、教育基本法をふまえ、教育実習を含めて教職課程で学んだことを報告、討論する。また「ソーシャルスキルの技法と実践」では学校が保護者や、大学を含む地域と連携して地域運営型学校（コミュニティスクール）を積極的に運営している事例を紹介し、ロールプレイを通して地域連携のあり方を体験的に学ぶ。「学級経営のあり方を振り返る」では学校目標や学級目標、学年目標等をふまえて学級経営のあり方を改めて問い直す。「教科の指導法を振り返る」では、教職課程の履修や教育実習を通して体得した教科の指導法（ICTの活用を含む）を、模擬授業を通して検証する。報告・討論・レポート作成を中心とする演習で、履修カルテを活用し、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補う。</p>					
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスー教職実践演習の意義と学び方およびフィールドワーク実施について （担当：竹内久顕、大家まゆみ、河野誠哉）</p> <p>≪第2回以降は、履修カルテを活用してこれまでの学習を振り返る。≫</p>					

- 第2回：教職課程を通して学んだこと（その1）－ 教育基本法をふまえ、教職の使命と責任について振り返り、レポートを作成する。レポート作成、報告のため、履修カルテを使用
（担当：竹内久顕、大家まゆみ、河野誠哉）
- 第3回：ソーシャルスキルの技法と実践（その1）－ 子ども・同僚・保護者との人間関係を円滑にするために（担当：河野誠哉）
- 第4回：ソーシャルスキルの技法と実践（その2）－ 学校が保護者・地域と連携するために
（担当：河野誠哉）
- 第5回：ソーシャルスキルの技法と実践（その3）－ 地域運営型学校（コミュニティスクール）
（担当：河野誠哉）
- 第6回：地域の公立中学校管理職の講演「教職の現状と課題」－ これからの教員にとって必要な資質（担当：竹内久顕、大家まゆみ、河野誠哉）
- 第7回：学級経営のあり方を振り返る（その1）－ 全般的な反省および制度・組織の再確認
（担当：大家まゆみ）
- 第8回：学級経営のあり方を振り返る（その2）－ 課題の整理と弱点の明確化（担当：大家まゆみ）
- 第9回：学級経営のあり方を振り返る（その3）－ 報告と討論による課題の究明と弱点の克服
（担当：大家まゆみ）
- 第10回：教科の指導法を振り返る（その1）－ 全般的な反省（ICT活用事例を含む）
（担当：竹内久顕、吉野由起、原田敦史、酒井一臣、山内博）
- 第11回：教科の指導法を振り返る（その2）－ 授業構成と教材解釈の弱点克服（ICT活用事例を含む）（担当：竹内久顕、吉野由起、原田敦史、酒井一臣、山内博）
- 第12回：教科の指導法を振り返る（その3）－ 授業技術と授業運営の弱点克服（ICT活用事例を含む）（担当：竹内久顕、吉野由起、原田敦史、酒井一臣、山内博）
- 第13回：学校現場で学ぶフィールドワーク－ 特に学校現場における人間関係に留意して履修カルテの完成、提出
（担当：竹内久顕、大家まゆみ、河野誠哉）
- 第14回：教職課程を通して学んだこと（その2）
－ 教育基本法をふまえ、教職の使命と責任について討論する
履修カルテの返却
（担当：竹内久顕、大家まゆみ、河野誠哉）
- 第15回：教職課程を通して学んだこと（その3）－ 教育実習で気づいた自らの弱点
（担当：竹内久顕、大家まゆみ、河野誠哉）

テキスト

「東京女子大学 教職実践演習 教材：教職実践演習を通して振り返る教職課程の学び」（オリジナルテキスト）

参考書・参考資料等

山崎準二・矢野博之編著『新・教職入門』学文社、2014年

中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）

学生に対する評価

「授業の到達目標」に掲げた点の達成度を以て評価する。作成したレポートや討論における発言等に基づいて評価を行う。その際、履修カルテの検討と教育実習の総括において見出された各自の克服すべき課題に即し、作成したレポートや討論における発言等を資料として評価を行う。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。